

# 平成24年度中部環境パートナーシップオフィス 運営業務年間報告書

平成25年3月29日  
特定非営利活動法人 ボランティアネイバーズ

【実施業務】

1. 協働事業促進のための情報収集提供・コンサルティング業務

(1) 施設管理運営業務

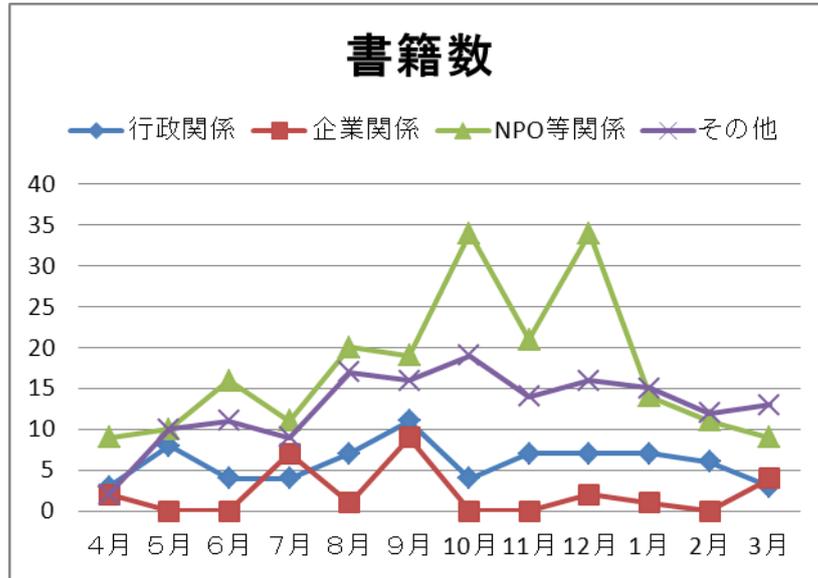
目的	協働事業を促進及び支援する施設サービスの提供（相談対応など）を行う。																																																																											
事業概要	<p>①施設維持管理 開館日：月曜日～木曜日 休館日：土・日曜日 開館時間：10:00～19:00 年間開館予定日数：241日 閉館日：毎週金曜日（資料整理日）、祝日、旧盆〔3日間〕及び年末年始〔12月29日～1月4日〕。</p> <p>②施設サービスの改善 ③オフィスの防火・防災管理及び解錠・施錠管理（防災管理士の配置） ④来館者対応業務 ⑤スタッフ体制：2.5名</p>																																																																											
事業内容	<p>■開館日数及び来館者数等</p> <table border="1" data-bbox="467 741 1444 947"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>合計</th> <th>月平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開館日数</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>21</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>22</td> <td>21</td> <td>19</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>241</td> <td>20.1</td> </tr> <tr> <td>来館者数 (日平均)</td> <td>26 (1.3)</td> <td>60 (2.9)</td> <td>32 (1.5)</td> <td>58 (2.8)</td> <td>37 (1.9)</td> <td>56 (2.9)</td> <td>76 (3.5)</td> <td>76 (3.6)</td> <td>52 (2.7)</td> <td>48 (2.7)</td> <td>59 (3.1)</td> <td>43 (2.2)</td> <td>623 (2.6)</td> <td>51.9 (2.6)</td> </tr> <tr> <td>問い合わせ件数* (日平均)</td> <td>23 (1.2)</td> <td>51 (2.4)</td> <td>25 (1.2)</td> <td>46 (2.2)</td> <td>46 (2.3)</td> <td>54 (2.8)</td> <td>83 (3.8)</td> <td>69 (3.3)</td> <td>31 (1.6)</td> <td>10 (0.6)</td> <td>51 (2.7)</td> <td>31 (1.6)</td> <td>520 (2.2)</td> <td>43.3 (2.2)</td> </tr> <tr> <td>スタッフ体制 (日平均)</td> <td>45 (2.3)</td> <td>47 (2.2)</td> <td>51 (2.4)</td> <td>48 (2.3)</td> <td>48 (2.4)</td> <td>55 (2.9)</td> <td>59 (2.7)</td> <td>70 (3.3)</td> <td>54 (2.8)</td> <td>56 (3.1)</td> <td>59 (3.1)</td> <td>64 (3.2)</td> <td>656 (2.7)</td> <td>54.7 (2.7)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※問い合わせ件数は、来館・電話の合計数 ※11月5～11日全国EPO連絡会インターンスタッフ数含む ※詳細については別紙参照</p> <div data-bbox="541 1055 1294 1525"> </div>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	開館日数	20	21	21	21	20	19	22	21	19	18	19	20	241	20.1	来館者数 (日平均)	26 (1.3)	60 (2.9)	32 (1.5)	58 (2.8)	37 (1.9)	56 (2.9)	76 (3.5)	76 (3.6)	52 (2.7)	48 (2.7)	59 (3.1)	43 (2.2)	623 (2.6)	51.9 (2.6)	問い合わせ件数* (日平均)	23 (1.2)	51 (2.4)	25 (1.2)	46 (2.2)	46 (2.3)	54 (2.8)	83 (3.8)	69 (3.3)	31 (1.6)	10 (0.6)	51 (2.7)	31 (1.6)	520 (2.2)	43.3 (2.2)	スタッフ体制 (日平均)	45 (2.3)	47 (2.2)	51 (2.4)	48 (2.3)	48 (2.4)	55 (2.9)	59 (2.7)	70 (3.3)	54 (2.8)	56 (3.1)	59 (3.1)	64 (3.2)	656 (2.7)	54.7 (2.7)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均																																																														
開館日数	20	21	21	21	20	19	22	21	19	18	19	20	241	20.1																																																														
来館者数 (日平均)	26 (1.3)	60 (2.9)	32 (1.5)	58 (2.8)	37 (1.9)	56 (2.9)	76 (3.5)	76 (3.6)	52 (2.7)	48 (2.7)	59 (3.1)	43 (2.2)	623 (2.6)	51.9 (2.6)																																																														
問い合わせ件数* (日平均)	23 (1.2)	51 (2.4)	25 (1.2)	46 (2.2)	46 (2.3)	54 (2.8)	83 (3.8)	69 (3.3)	31 (1.6)	10 (0.6)	51 (2.7)	31 (1.6)	520 (2.2)	43.3 (2.2)																																																														
スタッフ体制 (日平均)	45 (2.3)	47 (2.2)	51 (2.4)	48 (2.3)	48 (2.4)	55 (2.9)	59 (2.7)	70 (3.3)	54 (2.8)	56 (3.1)	59 (3.1)	64 (3.2)	656 (2.7)	54.7 (2.7)																																																														
協働パートナー	協働に関する情報及び相談ニーズのある団体、個人等																																																																											
数値目標	来館者数 550名（昨年度 545名 平均 45名/月）																																																																											
評価指標・方法	指標：来館者数、施設利用数、来館・電話・メールによるコンサルティング案件数及び内容等																																																																											
成果・評価	<p>開館日数：241日（4月～3月） 来館者数：623名（4月～3月 目標値 550名 昨年度 545名） 問い合わせ件数：520件（4月～3月）</p> <p>■情報収集提供 今年度の来館者については、1日平均 2.6人、問い合わせ数は 2.3件である。年間で見</p>																																																																											

	<p>ると年末年始、10～11月のESD事業が多かった時期以外ほぼ横ばいである。昨年度と比較すると増加傾向にはある。業務内容をプロジェクトベースを重視していることもあり、オフィス外での打合せが多いことが、年間ベースでの特に人数、件数が増えなかったことの要因の一つでもある。</p> <p>今年度の特徴は、014年ESD最終年大会の開催が愛知名古屋での開催に決定したため、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ESD関連の方の来館及び問い合わせが増えていること。</li> <li>・協働事業の打合せ、ESDに関する情報収集に来館される方が増えていること。</li> <li>・特に9～11月にかけては、ESD関連の事業が多く実施されたため、相談・情報収集が多かったこと、</li> </ul> <p>があげられる。</p> <p><b>■相談業務</b></p> <p>今年度はESDに関する取り組み動向や今後について、環境教育に関する内容の相談業務が多かった。相談内容が多岐にわたるため、日頃の情報収集及び提案力が試される。また、ESDに関する研修講師の依頼や小学校へのESD授業実施、ESD授業づくりのためのアドバイスなど、学校と地域をつなぐ事業を支援している。</p> <p>他、カーボン・オフセットの普及啓発の事業支援をしているため、相談案件が増えている。また愛知ターゲットや生物多様性地域戦略についての問い合わせや相談、企業からのステークホルダーによるダイアログ企画支援、助成金など資金調達に関する相談業務が増えている。</p> <p>相談業務から具体化した案件はとして下記があげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ユニー(株)被災地へのランドセル、書籍の送付       <ul style="list-style-type: none"> <li>①三重県の森づくり税導入に関して、県民への普及及び意見抽出を目的にした県民集会(計3回)実施</li> <li>②日本ガイシ(株)のステークホルダーダイアログの実施</li> <li>③愛知県ESDフェスタ企画実施(多様な主体との連携)</li> <li>④小中高等学校の授業づくりアドバイスと講師の紹介(学校と地域をつなぐ)</li> </ul> </li> </ul>
--	--

(2) Webサイト等を活用した環境情報の収集・発信・分析に関する業務

目的	<p>協働事業を促進及び支援する情報収集・提供を行う。利用者拡大に向けての仕組みを検討し、情報基盤を強化する。収集した情報は、協働促進のために分析、可視化し、蓄積する。</p> <p>民間団体等が環境政策の提案をするための情報提供をする(政策コミュニケーション支援)。</p>
事業概要	<p>①環境情報の収集等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 協働事業に関する情報収集・提供</li> <li>ii EPO中部・地方環境事務所・全国EPO・環境省に関する情報提供</li> <li>iii 各事業を通じて得られた情報を基に、環境政策提案をするための情報提供</li> <li>iv ホームページ(月2回以上更新)、メールマガジン(月1回原稿作成)発信、自治体の各種審議会等への参画：協働政策等の情報収集・提供</li> <li>vi 講座・ワークショップの支援等：協働事例の紹介、情報提供、意見収集等。</li> </ul> <p>②環境協働事例の分析等</p> <p>収集した協働事例のプロセス、成果、関係性、ステークホルダーの評価など分析項目を設定し可視化し、情報提供する。</p>
事業内容	<p>①環境情報の収集、提供及び広報に関する業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 環境パートナーシップ等に関する情報の収集、整理及び提供</li> </ul>

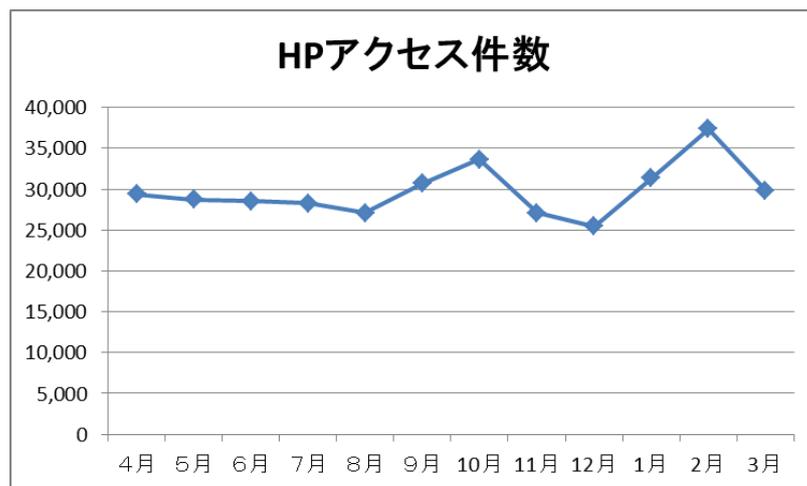
書籍	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
行政関係	3	8	4	4	7	11	4	7	7	7	6	3	71
企業関係	2	0	0	7	1	9	0	0	2	1	0	4	26
NPO等関係	9	10	16	11	20	19	34	21	34	14	11	9	208
その他	2	10	11	9	17	16	19	14	16	15	12	13	154
合計	16	28	31	31	45	55	57	42	59	37	29	29	459



ii ホームページの維持管理

原則、月2回更新作業を実施。年間を通して横ばいである。HPの利用を高めるために、掲載内容の検討が必要である。内部スタッフで更新できるブログ形式を取り入れたことにより、外部からの情報発信は少しずつできてきたが、内部の事業についての情報発信がなされていない。次年度改善したい。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	29,388	28,750	28,502	28,292	27,102	30,689	33,617	27,102	25,484	31,342	37,349	29,825	357,442



iii メールマガジンの原稿作成

毎月1回更新。計13回作成 登録者数 706部 (3月28日時点)

- ・発行日：2012年5月2日
- ・発行日：2012年6月5日
- ・発行日：2012年7月3日
- ・発行日：2012年8月7日
- ・発行日：2012年9月4日
- ・発行日：2012年10月2日
- ・発行日：2012年11月1日(臨時号)
- ・発行日：2012年11月6日
- ・発行日：2012年12月4日
- ・発行日：2013年1月8日
- ・発行日：2013年2月5日
- ・発行日：2013年2月15日(臨時号)
- ・発行日：2013年3月5日
- ・2013年4月分原稿作成

#### iv 自治体の審議会への参画

##### 愛知県

- ・愛知県自然環境保全戦略推進委員会（10月31日）
- ・あいち自然環境保全戦略推進委員会生態系ネットワーク検討会（7月12日）
- ・あいち自然環境保全戦略会議（7月20日）
- ・愛知県環境教育等推進協議会（7月4日）
- ・愛知県環境教育等推進協議会（11月26日）
- ・愛知県自動車環境戦略・自動車NOX・PM総量削減計画策定協議会合同部会（12月26日）
- ・あいち自然環境保全戦略推進委員会生態系ネットワーク検討会（1月17日）
- ・愛知県自然環境保全戦略推進委員会（2月12日）
- ・愛知県自然環境保全戦略推進委員会（3月6日）
- ・愛知県環境審議会廃棄物部会（3月27日）
- ・あいち地球温暖化防止戦略2020推進会議（3月28日）

##### 三重県

- ・三重県森林づくりに関する税検討委員会（4月25日）
- ・三重県森林づくりに関する税検討委員会（5月31日）
- ・三重県森林づくりに関する税検討委員会（第5回）（7月31日）
- ・三重県森林づくりに関する税検討委員会（答申）（8月10日）
- ・三重県自然環境保全審議会（9月6日）

##### 名古屋市

- ・名古屋市緑の審議会（12月17日）
- ・名古屋市東山再生ワーキング（7月12日）
- ・名古屋市東山再生フォーラム（12月16日）
- ・東山植物園「洋風庭園あり方懇談会」（第3回名古屋市緑生土木局）（10月18日）
- ・環境デーなごや2012実行委員会（4月17日）
- ・名古屋市リサイクル推進公社理事会（5月23日）
- ・名古屋市リサイクル推進公社理事会（2月15日）
- ・名古屋市みどりの審議会（3月26日）

##### 広域

- ・三県一市奈佐の浜プロジェクト委員会交流会（10月18日）
- ・東海三県一市カーボン・オフセット推進ワーキンググループ担当者会議（11月2日）

#### v 講座・ワークショップの支援等

愛知県・名古屋市

- ・あいち生物多様性フォーラム（9月14日）
- ・あいちコミュニティ財団（仮称）ファンデザインプロジェクト会議（10月2日）
- ・愛知県2年目職員研修生対応（10月5日）
- ・CBC ラジオ番組出演 ESD・パートナーシップ事例紹介（5月19日）
- ・学生 EXPO への視察（6月2日）
- ・名古屋市環境未来探検隊発足式出席（6月10日）
- ・名古屋市女性連絡会環境バザー視察（6月16日）
- ・蝶の飛ぶまちプロジェクト記念シンポジウムへ参加（6月28日）
- ・環境パートナーシップ・CLUB 総会（7月10日）
- ・いきもの共生事業所推進講習会（7月27日）
- ・おひさま自然エネルギー会社設立と記念講演会（7月27日）
- ・名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会（8月4日）
- ・水と森のごちそうイベント（9月14日）
- ・国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）生物多様性地域セミナーIN名古屋（9月29日）
- ・パナソニックエコシステムズ(株)環境絵画コンクール審査会（10月2日）
- ・名古屋市 NPO アドバイザー設置事業「NPO 相談会」(10月17日)
- ・各市町村の清掃用具提供と保険制度の調査（10月18日）
- ・食農循環事業ビジョン検討会（10月22日）
- ・中堅中小企業のための CSR 研究会セミナー参加（10月23日）
- ・環境パートナーシップ・CLUB 自然共生社会分科会(9月27日)
- ・環境パートナーシップ・CLUB 自然共生分科会(8月22日)
- ・環境パートナーシップ・CLUB 自然共生分科会(10月24日)
- ・環境パートナーシップ・CLUB 自然共生分科会主催セミナー(11月21日)
- ・環境パートナーシップ・CLUB 自然共生分科会主催研究会（12月26日）
- ・環境パートナーシップ・CLUB 自然共生分科会主催研究会(1月23日)
- ・なごや環境大学ユニバー(株)提供インタープリター養成講座（12月1日）
- ・想いでつなごう！折り紙アクションタイムカプセル@東山（12月8日）
- ・フェアトレードタウン名古屋ネットワーク (FTNN) 設立総会（1月11日）
- ・フェアトレードタウン名古屋ネットワーク (FTNN) 臨時会議（3月9日）

三重県

- ・みえきた市民活動センター きらきらラジオ出演（5月17日）
- ・三重県答志島奈佐の浜清掃参加（6月9日）
- ・三重県森林づくり会議ミニ県民集会（桑名 6月21日）
- ・三重県森林づくり会議ミニ県民集会（四日市 6月27日）
- ・海づくり会議みえ学習会講師（6月28日）
- ・「みえの森林づくり」を考えるミニ県民集会（津 7月4日）
- ・みえ生物多様性活動発表交流会（8月25日）
- ・三重銀行総合研究所助成金審査会（1月18日）
- ・三重銀行総合研究所助成金審査会（1月28日）

②環境協働事例の分析等

収集した協働事例のプロセス、成果、関係性、ステークホルダーの評価など分析項目を設定し可視化し、情報提供する。

サステイナブルな事業を「本気」で創る中部7県「協働会議」にて、プロセス、成果、ステークホルダーの関係性などを、中部7県の生物多様性保全、再生可能エネルギー、ESD（持続発展教育）の3テーマ21協働事例から把握することができた。今後いかに分析し、わかりやすく可視化及び情報提供するか検討に入る。

※サステイナブルな事業を「本気」で創る中部7県「協働会議」

日時：2013年3月1日(金)

	<p>場所：愛知大学名古屋キャンパス          参加者：110名          主催：環境省中部地方環境事務所          環境省中部地方パートナーシップオフィス          後援：愛知学長懇話会</p>
協働パートナー	協働事業を実施している主体、運営会議委員等
数値目標	<p>環情報収集、整理、提供件数 500件（昨年度464件、38.7件/月）          HPアクセス数 395,000件（390,462件 平均32,539件/月）</p>
評価指標・方法	<p>指標：収集した情報量及び領域バランス、ホームページアクセス数等          方法：ホームページ、メルマガ利用者のアンケート調査等</p>
成果・評価	<p>環情報収集、整理、提供件数 459件（4月～3月 目標値500件 昨年464件）          HPアクセス数 357,442件（4月～3月）※カウント方法変更のため比較不能</p> <p>① i 環境パートナーシップ等に関する情報の収集、整理及び提供          昨年度に比べ、収集量が減少した。中部7県の行政、企業の情報収集が課題である。また、ESDに関する国際的、全国的な情報の収集も課題である。情報がWEBベースでの案内が多くなってきているため、紙媒体での送付が減っているのも減少要因の一つであろう。2014年に向けてESDに関する情報コーナー及び書籍・報告書の閲覧を検討している。</p> <p>ii ホームページの維持管理          メール等で届く地域からの掲載依頼に対応している。EPO事業に関しての情報提供が充分になされていないため今後検討が必要である。又、利用件数に関しては横ばい状況である。ESDをテーマにしたコーナーの設置や事例紹介、情報提供を検討している。</p> <p>iii メールマガジンの原稿作成          中部7県で開催されている、行政、事業者、NPOから届けられるイベント情報を中心に情報提供のための原稿作成を行った。登録数減少傾向にある。</p> <p>iv 自治体の審議会への参画          各自治体の施策に「協働」「市民参加」の視点を組み入れるため、また施策状況把握のため参加。具体的には、愛知県生物多様性地域戦略、愛知県環境教育基本方針(改正)、三重県森林税導入など。東海3県1市の広域的事業展開に関する施策検討に参加することで、EPOの役割機能の活用を提示したが、北陸・長野地域の機会がないため状況が把握しにくい状況にある。</p> <p>v 講座・ワークショップの支援等          行政、事業者、NPOなど多様な主体が実施している企画支援や、参加を行うことで、協働の現状、課題を把握し、EPOとして提供できる情報、機能を提示した。</p> <p>②環境協働事例の分析等          3月に実施した「協働会議」で取り上げた協働事業から共通の阻害要因や課題、とり除く為の方策等を把握した。今後分析、可視化作業の検討に入る。</p>

## 2. 地域課題解決のための協働促進のための支援業務

### (1) 持続可能社会に向けた地域協働モデルづくり

#### 1) 「ESD 協働推進会議(仮称)」の設置と協働による ESD 普及・実践事業の実施及び支援

目的	<p>①認知度の向上          ②実践を進める NPO/NGO の連携強化          ③学校と地域の連携による実践の拡大          ④自治体(教育委員会含)の政策や企業の取組強化</p>
事業概要	<p>① NPO/NGO が主体となる ESD 協働実践推進のための組織を設立のための準備支援を行う。          i 2014 年に向けた NPO/NGO との検討会議          ②ESD 実践に関する事例などの情報収集や、ネットワーク拡大及び人材育成のための講座等の実施。          ii なごや環境大学との協働による「ESD 講座」「ESD プロジェクト」の実施          ③学校と地域の連携が促進する支援を行う。          iii 愛知県総合教育センターとの協働事業「教員研修」「教材開発」          iv 中部 ESD 拠点との協働事業「学校と地域の実践普及(ユネスコスクール普及)」          ④教員のネットワークが北陸・東海連携等広域展開されるよう支援する。          ⑤ESD 実践普及のためのコンサルティングや講座実施、講師派遣、イベントの支援、普及啓発ツールの作成支援等</p>
事業内容	<p>2014 年に向けて主に「学校と地域連携」を進める教育 NPO へのヒアリング、検討会議、普及啓発及び人材育成のための講座の実施、教員及び学校を対象にした研究及び支援、ESD 事業展開のための支援、中部 ESD 拠点プロジェクトの立ち上げ、NPO/NGO による意見交換会等を実施した。</p> <p>① NPO/NGO が主体となる ESD 協働実践推進のための組織を設立のための準備支援を行う。          i 2014 年に向けた NPO/NGO との検討会議          ・ESD2014 に向けての意見交換会(仮称)          (5月10日・6月14日・7月25日・9月25日・11月9日・12月6日・1月16日・3月14日)          ・NGO との会議準備(5月)          ・NPO/NGO 関係者ヒアリング(4～5月)          ・NPO 法人アスクネットへのヒアリング(5月25日)          ・草の根支えあいプロジェクトヒアリング(10月24日)          ・名古屋をフェアトレードタウンにしよう会(8月4日)          ・名古屋をフェアトレードタウンにしよう会(11月17日)</p> <p>②ESD 実践に関する事例などの情報収集や、ネットワーク拡大及び人材育成のための講座等の実施。          ii なごや環境大学との協働による「ESD 講座」「ESD プロジェクト」の実施、次年度の ESD 講座企画・ガイドブックのコラム原稿作成など          ・ESD 講座第 1 回(5月26日)          ・ESD 講座第 2 回(6月23日)          ・ESD 講座第 3 回(8月18日)          ・ESD 講座第 4 回(10月13日)          ・ESD 講座第 5 回(12月2日)          ・ESD 講座全体企画調整(4月)          ・ESD 講座第 1・2 回講師依頼など準備(5月)          ・ESD 講座第 2・3 回講師依頼など準備(6月)          ・ESD 講座第 3・4・5 回講師依頼など準備(7～9月)          ・ESD 講座第 4・5 回講師依頼など準備(10～12月)          ・ESD 推進チーム(仮称)打合せ(5月28日・6月15日・6月28日・11月6日・3月23日)          ・環境デーなごや ESD 企画会議(7月12日・8月21日)</p>

- ・環境デーなごや ESD 企画説明会（8月29日）
- ・環境デーなごや（9月15日）
- ・環境デーなごや ESD 企画ふりかえり会（10月11日）
- ・なごや環境大学 2012 後期ガイドブック ESD コラム作成
- ・なごや環境大学企画者交流会 ESD 説明会（3月6日）

③学校と地域の連携が促進する支援を行う。

iii 愛知県総合教育センターとの協働事業「教員研修」「教材開発」

- ・ESD 研究会打合せ（4～5月）
- ・ESD 研究会（5月16日・6月22日・8月1日・10月16日・11月20日・2月20日）
- ・研究発表会（11月30日）
- ・特別支援学校初任者研修（7月10日）
- ・ESD 教材開発のための打ち合わせ（3年間実施した研究会の成果）（数回）

iv 中部 ESD 拠点との協働事業「学校と地域の実践普及(ユネスコスクール普及)」

- ・中部 ESD 拠点協議会運営委員会  
（5月14日・6月5日・6月26日・8月1日・9月5日・10月15日・12月13日・1月10日）
- ・中部 ESD 拠点キックオフ・フォーラム（7月7日）
- ・中部 ESD 拠点プロジェクト内部打合せ（9月24日）
- ・中部 ESD 拠点プロジェクト会議（11月9日）
- ・中部 ESD 拠点協議会事務局との打合せ（9月28日）
- ・北九州 ESD 拠点協議会ヒアリング（8月17日）
- ・中部 ESD 拠点流域 ESD 講座打合せ（10月29日）
- ・ESD ヒアリング取材  
久居農林高等学校（12月18日）  
中部大学第一高等学校（12月20日）  
岡崎市竜南中学校（12月25日）  
鈴鹿市教育委員会（1月9日）  
名張市教育委員会（1月9日）  
西尾市立西尾小学校（1月10日）  
安城市立里町小学校（1月10日）  
岐阜市立島小学校（1月21日）  
岐阜聖徳学園高等学校（1月21日）  
名古屋市立名東高等学校（1月22日）  
愛知県立千種高等学校（1月23日）  
あま市教育委員会（1月23日）  
三重大学教育学部附属中学校（1月24日）  
三重県立北星高等学校（1月24日）  
名古屋市立東築地小学校（1月25日）  
西尾市教育委員会（1月25日）  
阿久比町教育委員会（1月28日）
- ・中部 ESD 拠点 Day（2月10日）
- ・中部 ESD 拠点交流会（3月14日）

④教員のネットワークが北陸・東海連携等広域展開されるよう支援する。

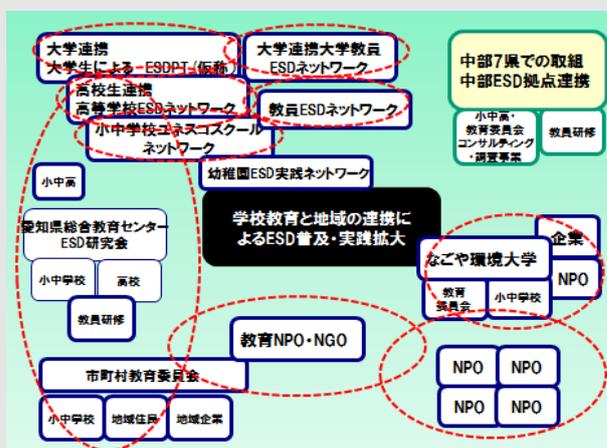
- ・あま市甚目寺小学校 ESD 授業打合せ（5月24日・6月11日）
- ・あま市立甚目寺小学校教員対象勉強会（7月18日）
- ・岡崎市新香山中学校 ESD 授業打合せ（6月8日）
- ・岡崎市新香山中学校 ESD 授業視察（6月21日）
- ・新香山中学校 ESD 研究発表会（11月14日）
- ・豊田市立土橋小学校 ESD 授業視察（7月11日）
- ・岡崎市立常盤南小学校視察（7月26日）

- ・東浦町緒川小学校 PTA 対象 ESD 講演（9月13日）
- ・愛知県一宮南高等学校 ESD 研修（10月25日）
- ・岡崎市あさひこ幼稚園視察（11月14日）
- ・平成24年度愛知教育大学・愛知県ユネスコスクール研修会（8月7日）
- ・高等学校での ESD 研修相談（9月25日）
- ・愛知教育大学への提案書作成
  
- ・高等学校 ESD コンソーシアムミーティング（6月5日）
- ・高等学校 ESD コンソーシアム in 愛知ミーティング（8月3日）
- ・高等学校 ESD コンソーシアム in 愛知会議（10月10日）
- ・高等学校 ESD コンソーシアム in 愛知会議（12月12日）
- ・高等学校 ESD コンソーシアム in 愛知（ESD 実践発表会）（12月27日）
- ・サステイナブルな事業を「本気」で創る中部7県「協働会議」にて ESD（持続発展教育）分科会を実施。  
日時：2013年3月1日（金）  
場所：愛知大学名古屋キャンパス  
参加者：110名  
主催：環境省中部地方環境事務所  
環境省中部地方パートナーシップオフィス  
後援：愛知学長懇話会

⑤ ESD 実践普及のためのコンサルティングや講座実施、講師派遣、イベントの支援、普及啓発ツールの作成支援等

- ・愛知県 ESD 事業打合せ（5月8日）
- ・愛知県環境活動推進課打合せ（8月6日）
- ・愛知県環境学習基本方針への ESD 視点の導入検討
- ・愛知県環境学習施設等連絡協議会 ESD 講座（10月19日）
- ・愛知県地球温暖化防止推進委員 ESD 研修（8月22日）
- ・名古屋市教育委員会環境未来探検隊打合せ（4～5月）
- ・名古屋市教育委員会環境未来探検隊発足式（6月10日）
- ・名古屋市教育委員会「子ども環境会議」（12月23日）
- ・ESD2014 支援実行委員会と打合せ（6月1日）
- ・ESD2014 支援実行委員会と打合せ（8月6日・8月29日）
- ・ESD2014 支援実行委員会 HP 原稿作成
- ・三重県環境学習センター ESD 研修企画作成
- ・三重県環境学習情報センター「持続可能な社会をみざす人づくり講座」（11月25日）
- ・全国まなびあいフォーラム講師紹介等
- ・環境省 ESD まなびあいフォーラム（10月27日）
- ・EPO ネットワーク ESD 事業検討会（6月13日）
- ・全国 EPO 連絡会 ESD 情報共有会（7月13日）
- ・ESD に関する書籍・報告書リストアップ
- ・ESD 実践活性化のための助成金情報の収集
- ・中日新聞 ESD 情報記事の作成
- ・朝日新聞取材対応
- ・FM 愛知 ESD 実践校紹介など打合せ（6月8日）
- ・ユニー(株)環境社会貢献レポート ESD 記事の作成・監修
- ・ワールドコラボフェスタ後夜祭フェアトレードタウン（10月28日）
- ・あいち ESD フェスタ（11月3日、4日）
- ・藤前干潟ふれあいデー（11月17日、18日）
- ・雲出川フォーラム（11月18日）
- ・ESD の 10 年・地球市民会議 2012（11月27・28日）
- ・愛知県新しい公共事業 ESD 分科会企画作成
- ・愛知県新しい公共フォーラム第12分科会「しあわせ会議～ESD for SMILE」（1月

	<p>12日) 企画作成、ゲスト交渉・説明、広報等実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいちESDフェスタ IN 三河(1月26日・27日)</li> <li>・どろんこ村取材(2月3日)</li> <li>・朝日新聞社「WA WOMAN プロジェクト」シンポジウム(3月20日)</li> <li>・ESD冊子「未来をつくる『わたし』のESD ACTION」作成</li> </ul>
協働パートナー	中部ESD拠点、なごや環境大学、愛知県総合教育センター、NPO/NGO、自治体、企業、高等教育機関、ヒアリング団体等
評価指標・方法	<p>指標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①普及啓発事業の支援とその結果</li> <li>②NPO/NGO連携強化</li> <li>③学校と地域の連携による実践の拡大</li> <li>④自治体(教育委員会含)の政策や企業の取組強化、等。</li> </ol> <p>方法：ステークホルダーとスタッフによる事業評価</p>
成果・評価	<p>① NPO/NGOが主体となるESD協働実践推進のための組織を設立のための準備支援を行う。(i 2014年に向けたNPO/NGOとの検討会議)</p> <p>ESDに取り組む必要性の分析、将来の子ども像・社会像・ビジョンの作成、変革の方向性の確認、課題解決とビジョン達成のための手立ての提案、モデル実践、システム提言というプロセスを検討。「子どもが持っている力を発揮できない要因」を意識、構造、現象を氷山の一角モデルにて分析。持続可能な社会づくりの阻害要因とその根拠となる人々の意識をどう変えるか、そのために学校と地域の連携におけるESD実践のあり方について協議をしている。中部ESD拠点プロジェクトの一つとして展開を支援。</p> <p><b>【参加NPO】</b> NPO法人NIED・国際理解教育センター、NPO法人アスクネット、NPO法人こどもNPO、名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会、NPO法人なごやNGOセンター開発教育委員会</p> <p>②ESD実践に関する事例などの情報収集や、ネットワーク拡大及び人材育成のための講座等の実施。(ii なごや環境大学との協働による「ESD講座」「ESDプロジェクト」の実施、次年度のESD講座企画・ガイドブックのコラム原稿作成など)</p> <p>「ESDとは」「学校での実践」「企業での実践」「次世代とESD」「海外事例」をキーワードにESDフォーラム2012を含め計5回のESD講座を実施。NPO、教員、学識者、大学生、企業担当者、海外NGOスタッフなど多様なゲストを招き、大学生、NPO、教員、事業者などの参加を得てゆるやかなネットワークを形成した。なごや環境大学内にESD推進チームを結成。環境デーなごやにおいて、なごや環境大学企画講座実施団体とのコラボレーションによるESD普及啓発を実施。講座企画者対象にしたESD説明会を実施。活動を実践している人たちESDを理解していただき、ESDでつながるための機会を創出した。</p> <p>③学校と地域の連携が促進する支援を行う。</p> <p>(iii 愛知県総合教育センターとの協働事業「教員研修」「教材開発」)</p> <p>学校へのESDカリキュラム導入についての研究会を計6回実施。その成果を教員、学校を対象にした教材にまとめた。他初任者を対象にしたESD研修を実施(計2回)。</p> <p><b>【参加協力校】</b> あま市立甚目寺小学校、東浦町立緒川小学校、岡崎市立新香山中学校、一宮市立葉栗中学校、愛知県立豊田東高等学校、愛知県立愛知商業高等学校、愛知県立刈谷高等学校</p> <p>iv 中部ESD拠点との協働事業「学校と地域の実践普及(ユネスコスクール普及)」</p> <p>中部ESD拠点協議会に計8回出席。中部ESD拠点プロジェクト2014の第2分科会を担当し、学校と連携した地域のESD実践のしくみづくりを進める。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ユネスコスクール、教育委員会への取材(計17件)</li> <li>②高等学校ESDコンソーシアム会議の支援(高校生約80名参加)</li> <li>③ESD2014意見交換会の支援</li> </ol>

	<p>の支援を実施した。</p> <p>④教員のネットワークが北陸・東海連携等広域展開されるよう支援する。 ESD 実践校の視察、コンサルティング、研修などを通して、教員間のネットワーク形成を促進するための情報収集・提供を実施。また高等学校コンソーシアム IN 愛知を組織化し高等学校での ESD 実践の普及拡大、経験交流の支援をした。 中部 7 県協働会議にて中部 7 県のユネスコスクール登録校、ASP-NET 登録大学、国立教育政策研究所と、学校への ESD 普及と、学校と地域の連携による ESD 実践についての意見交換をした。</p> <p>⑤ESD 実践普及のためのコンサルティングや講座実施、講師派遣、イベントの支援、普及啓発ツールの作成支援等 愛知県、名古屋市、三重県環境学習センター、ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会と ESD 普及、ESD 研修の実施についての意見交換を実施。また各主体が実施する ESD に関するイベントに積極的に参画をし、学校や地域の取組など紹介及びコーディネートをした。「女性と ESD」をコンセプトにした企画を朝日新聞社が実施することとなり、「生活レシピ」女性専門家を紹介し、実現した。EPO 中部は協力団体として参加した。最新の情報、取材内容を掲載した ESD 冊子を作成した。</p> <p>ユネスコスクールの拡大に伴い、学校や教育委員会、大学が積極的に ESD 実践の促進をすすめている。NPO や NGO も 2014 年の国際会議をきっかけにこれまでの活動のノウハウや情報の蓄積を学校や地域に根づかせようとしている。とともに人材育成の取組も動き始めている。各主体の効果的な「つなぎ」「アドバイス（提案）」「情報提供」「コンサルティング・マッチング」を行い、ESD の価値や概念を地域社会に根付かせる主体間のネットワーク形成ができつつあるため、さらに協働、支援をしていく。</p> 
--	--

2) 「持続可能なコミュニティ形成のための協働事業の公募」に向けた仕組みづくり

目的	地域が必要としている協働事業（持続可能なコミュニティ形成のための（広域展開可能な）協働事業）に対して EPO のネットワークや機能を活用した支援を行う。
事業概要	地域の具体的課題をテーマに広域的に取り組む協働事業を公募し、緊急性、重要性、事業実施の可能性、広域展開の可能性、協働実施の影響度、地域主体形成の可能性、継続性、EPO 支援内容などの選考基準を設け、支援事業を決定する。選考した事業は、人材、資金の持ち寄り等を検討する事業実施に向けての会議を実施後、地域主体のオーナーシップによる「地域協働支援事業」と位置付ける。EPO が参画することでより効果的に協働事業が実践されるよう支援を行い、その成果を可視化や情報提供を行う。EPO は、特に人材や資金の持ち寄りを可能にするマッチング、仕組みづくりの支援をする。支援内容や期間、体制などルール化を図り、運営会議会の了承を得て実施することとする。今年度は準備期間であり、依頼のあった事業を主な対象とし試行的に実施。次年度以降のしくみ化を図る。
事業内容	今後の公募に向けて、地域課題や推進体制の在り方などの情報収集を行った。中部 7 県の運営委員へのヒアリングや施設コンサルティングなどから、「ESD」「再生可能エネルギー」「流域圏」「中間支援団体への支援」などの概ねのキーワードが炙り出された。各地域のキーワードに関する事業の現状を鑑み、応募要領や体制を今後具体的に検討の必要性を確認。さらに、中部 7 県協働会議の企画をすすめるために、「再生エネルギー」

	<p>「ESD」「生物多様性」の3テーマにおいて中部7県の状況把握及び先進事例の把握および企画検討内部会議を行った。さらに、3テーマにおける協働事業の今回取り上げるための選定、選定先との交渉及び内容調整、画書作成、扱う事例の共有と協議、運営委員への依頼、会場を予定している愛知大学への依頼・下見等を行った。再生可能エネルギーの分科会については東北 EPO と連携し、震災経験による地産地消エネルギー創出について協議も行った。協働事例発表者、コーディネーターの正式依頼など作業を進めた。事前に資料を送付いただき、当日の論点整理をした。</p> <p>～サステイナブルな事業を「本気」で創る～中部7県「協働」会議開催 2013年3月1日(金) 13:00～17:30 協働事例発表者: 21 団体 (各テーマ7 団体) 協働事業実施ゲスト: 2 団体 参加者: 110 名 (生物多様性 31 名 再生可能エネルギー: 44 名 ESD: 31 名 他 4 名) 後援: 愛知学長懇話会</p>
協働パートナー	運営会議委員、協働事業実施主体者等
評価指標・方法	<p>指標: 公募事業の支援と効果(公募事業数及び内容、広域展開の可能性、協働実施の影響度、地域主体形成の可能性、継続性等)等</p> <p>方法: 事業実施者及びステークホルダーとスタッフによる評価</p>
成果・評価	<p>各分科会にて、①事業化するための共通の阻害要因・課題の共有、②広域で解決すべき共通のアプローチ・方策の検討 ③そのための必要なリソース・支援について協議をした。中部7県において3つの領域ではあるが、協働事業における課題、阻害要因などを把握することができた。今後、どのような公募内容、方法であれニーズに対応できるかを検討し、実施基盤をどうつくるかを検討、EPO が支援すべき協働事業に対してアプローチをしつつ(次年度環境省施策と連携など)仕組みづくりに取り組む。参加者アンケートより、開催地、事例発表内容やテーマ数、会議設計について意見を得ているので、素材にして今後検討する。</p>

#### [実施事業]

①北陸 EPO 運営会議(仮称) 事業支援(継続)	
目的	北陸三県の協働のプラットフォームの構築。
事業概要	一昨年から取組んだ再生可能エネルギーについての学習会、経験交流会の成果を活かし、再生エネルギー普及啓発及び事業化に向けての展開を図る。
事業内容	<p>上半期運営会議や各県へのヒアリングを通して、地域ポテンシャルを把握し、今後はそれらを鑑みた研究会や1対1のマッチングイベントなど事業化に向けた経験交流会開催の必要性を運営委員と合意することが出来た。北陸 EPO 運営会議(仮称)事務局と打合せをし、今年度のスケジュールの確認と、3月予定の中部7県協働会議との連携についての協議を行った。また、各県の環境フェアの開催状況の把握と連動の可能性についてもヒアリング及び意見交換した。</p> <p>下記研究会を実施、各地域の再生可能エネルギー普及の情報共有と事業化に向けた検討、本事業の成果の共有と課題の検討を行った。また3月に開催した中部7県協働会議の再生可能エネルギーの分科会と連携し、積極的参画をしていただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木質バイオマス事業化研究会を実施(2012年11月10・11日 富山)。</li> <li>・北陸再生可能エネルギー協働事業化研究会を実施(2013年2月8日 石川)</li> </ul>
資金	-
協働パートナー	北陸三県における EPO 中部運営会議委員
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	<p>北陸再生可能エネルギー協働事業化研究会(NPO 法人エコプランふくい受託)では、81名の参加者を得て、また金融機関、北陸共生会議など企業セクターが参加することにより新しい視点での意見交換ができた。</p> <p>また3月1日実施の「中部7県協働会議」の再生可能エネルギー分科会にて成果を報告</p>

	し、東海・長野の再生可能エネルギーに関して協働事業を実施している主体及び参加者との意見交換をし、共通課題の確認、課題解決のための方策を協議した。北陸三県でのプラットフォームの基盤が出来つつある。
--	---

②なごや環境大学事業支援(継続)	
目的	環境学習を主軸にした多様な主体の学びの場づくりの支援
事業概要	多様な主体による「まちじゅうがキャンパス」をキャッチコピーとした、多様な主体による開かれた環境学習事業、ESD 事業である。EPO 中部は、多様な主体の参画・協働の促進、企画の質と量の向上、運動性の強化、多様な主体の参加及び協働関係の向上、他地域に類似事業の展開がなされるよう支援する。(福井県、富山県にて検討)
事業内容	<p>なごや環境大学主催講座(地球環境学)のテーマを「国際社会における名古屋人」、気候変動に関する COP17、リオ+20、COP11、ESD2014 に関する情報提供及び学びの場、認証マークによる普及啓発、を具体的内容としたため、講師紹介、企画提案、コーディネートを担当した(5~11月)。</p> <p>他、企業とNPOのマッチングを進める動かそうチーム会議、幹事会、総会に出席した。協働の装置である「なごや環境大学」を、2014年のESD ユネスコ会議に向け、どう使うか、また、第3期に入ったため、いかに協働による学びの場を発展させていくか、について協議する場をもった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催講座「地球環境学」第1回(4月14日)</li> <li>・主催講座「地球環境学」第2回(5月12日)</li> <li>・主催講座「地球環境学」第3回(7月7日)</li> <li>・主催講座「地球環境学」第4回(7月28日)</li> <li>・主催講座「地球環境学」第5回(9月8日)</li> <li>・講座チーム会議(4月11日・5月11日・6月8日・8月21日・10月12日・3月23日)</li> <li>・公募講座審査会(7月13日・12月14日)</li> <li>・動かそうチーム会議(4月5日・6月26日)</li> <li>・代表者チーム会議(7月5日・11月6日)</li> <li>・幹事会(4月20日・12月6日)</li> <li>・総会(5月28日)</li> <li>・共育ゼミナール報告会(3月23日)</li> <li>・代表者幹事会(3月28日)</li> </ul>
資金	-
協働パートナー	なごや環境大学実行委員会(企業・NPO/NGO、学識者等)
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	<p>今年度は、気候変動に関する COP17、リオ+20、CBDCOP11 が開催されたため、また ESD ユネスコ世界会議が愛知名古屋で開催されることとなったため、環境省の機関として、国際社会の動向や国の方針、国策を伝える場として有効に活用した。本地域ではそういった情報が不足しているため、今後地方事務所と連携しつつ、何等かの形で継続したいと考える。</p> <p>他チーム会議については、地域ニーズに基づくプロジェクトのありようを検討し、特に「協働による学びの場の創出」という視点で意見した。</p> <p>動かそうチームが実施している、マッチングのためのプレゼンテーション企画は補完性による協働を可能にするための内容であり、講座以外の新しい協働スタイルの事業として支援した。</p>

③JST プロジェクト「名古屋発！低炭素型買い物・販売・生産システムの実現」支援(継続)	
目的	低炭素社会の実現を目指し、市民、企業、NPO/NGO、大学、市民の協働による広報媒体を作成する。
事業概要	多様な主体の生声を抽出(調査)し、感性工学の専門家や女性専門家と低炭素型ライフ

	スタイルへの参加・協働を可能にしうる広報媒体（生活レシピ集）の作成とその普及啓発事業を支援する。
事業内容	<p>〈支援内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メールでの意見調整（４・５月）</li> <li>・事務局会議（６月２６日・７月１８日・８月１０日）</li> <li>・スカイプ事務局会議（７月４日）</li> <li>・事業全体会議（８月２７日）</li> <li>・女性専門家ヒアリング（８月３日・８月１０日・８月２０日・８月２１日・８月２３日・８月２４日）</li> <li>・第１回女性専門家会議（８月１６日）</li> <li>・第２回女性専門家会議（８月２８日）</li> <li>・フランス視察報告会（８月２８日）</li> <li>・CO2換算に関するヒアリング（８月２４日）</li> <li>・CO2換算についての情報共有（１０月６日）</li> <li>・生活レシピモニター調査集計（１０月１８日～２９日）</li> <li>・生活レシピモニター調査分析（１１月１～６日）</li> <li>・生活レシピモニター調査報告書、フォーラム広報媒体作成（１１月７～９日）</li> <li>・ブラッシュアップ会議案内作成・送付（１１月５・６日）</li> <li>・ブラッシュアップ会議開催準備（１１月７～９日）</li> <li>・ブラッシュアップ会議（１１月１２日）</li> <li>・生活レシピWEB掲載検討（１０月２３日）</li> <li>・生活レシピ作成のためデザイナーと打ち合わせ（１１月１５日）</li> <li>・生活レシピ原稿作成（１１月１６日～１２月１０日）</li> <li>・『とっておきの生活レシピ』作成（１２月５日～１２日）</li> <li>・『とっておきの生活レシピ』発行（１２月１４日）</li> <li>・『とっておきの生活レシピ』配布スタート（１２月１５日）</li> <li>・生活レシピフォーラムチラシ作成（１２月６～１０日）</li> <li>・生活レシピフォーラムゲストとの打ち合わせ（１２月１２日）</li> <li>・生活レシピフォーラム開催のための事前打合せ（１２月１５日）</li> <li>・生活レシピフォーラム『Eco&amp;Happyなトークしましょ！with生活レシピ作成委員会開催（１２月１５日）参加者：２７名（うちゲスト３名、スタッフ４名）</li> <li>・「とっておきの生活レシピ」発行：A５版カラーP２０ ２０００部印刷</li> </ul> <p>【女性専門家】</p> <p>原田さとみ氏（タレント、エシカル・コーディネーター）  尾関 さえ氏（デザインスタジオ slow mama 主宰）  廣瀬 ちえ氏（CHIE'S KITCHEN 主宰）  吉野 隆子氏（オアシス 21 オーガニックファーマーズ朝市村村長）  山本 幸以氏（KOI ヨガ タイ古式マッサージスクール校長）  永田 潤子氏（大阪市立大学准教授）</p> <p>【CO2換算作業協力】</p> <p>名古屋市上下水道局 2011 年度環境報告書  日本ミネラルウォーター協会  加子母森林組合  ウッドマイルズ研究会</p>
資金	117 万円（H23 年度繰越金 845,000 円＋H24 年度 325,000 円）
協働パートナー	女性専門家、女性モニター、相山女子学園大学、大阪市立大学、ユニー(株)、NPO/NGO 他
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	<p>事業のステークホルダーである女性専門家へのヒアリング及び会議を実施し、生活レシピ集の原稿の作成、作成した生活レシピの社会ニーズを図るモニターアンケート調査（女性 100 名を対象）の作業支援を行った。また、生活レシピの内 4 項目（水の使用、木材の利用）に関して行動変容による CO2 換算及びシナリオ作成作業支援を行った。モニター調査の結果を踏まえ、女性専門家と生活レシピ集の内容を深めるためのブラッシュアップ会議、生活レシピ集発行、生活レシピフォーラム開催を支援した。</p> <p>生活レシピ集は、女性を対象にした生活提案として、今後 ESD, CO2 削減の教材、女性専</p>

	<p>門家のフィールドで普及啓発（店舗配布、講演配布、イベント配布など）などに活用する。他活用法を検討している。</p> <p>「女性とESD」をテーマにした企画を朝日新聞社が実施することとなり、「生活レシピ」女性専門家を紹介し、実現した。EPO 中部は協力団体として参加した。</p>
--	---

<b>④協働政策形成事業「生物多様性の保全による都市部の緑化推進—地域性苗木の広域展開—」支援（継続）</b>	
目的	多様な主体の協働による、地域に自生していた郷土種を利用した植生回復を行う。
事業概要	名古屋市内の公園等でNPO等が採取した郷土種の種や枝を、育成技術を有する企業が育て、協働で植樹を行う。EPO 中部は資金調達、企業連携、広域展開、事務局運営支援等を行う。
事業内容	<p>事業実施4年目である今年度は、これまでに育苗された苗木を用いてなごや東山の森への補植と西の森への育樹を実施し、主には広報と団体間調整を担った。また協議会終了年後を平成26年とし、所有する苗木の植樹先や継承事業の検討、3カ年の植樹計画の作成を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第10回郷土種子保全協議会開催（6月14日）</li> <li>・第11回郷土種子保全協議会開催（7月17日）</li> <li>・第12回郷土種子保全協議会開催（11月5日）</li> <li>・郷土種子保全協議会東山の森補植事業（4月7日）</li> <li>・郷土種子保全協議会西の森育樹祭（5月4日）</li> <li>・東山森づくりの会運営委員会出席（9月20日）</li> <li>・中日本高速道路㈱との意見交換（9月27日）</li> <li>・第13回郷土種子保全協議会開催（2月1日）</li> <li>・郷土種子保全協議会東山の森植樹事業（3月16日）</li> </ul>
資金	-
協働パートナー	郷土種子を活用したなごやの緑化及び生物多様性保全推進協議会
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	名古屋市、名古屋市みどりの協会、なごやの森づくりパートナーシップ会議、各地域のNPO、企業といったマルチステークホルダーと、今後の名古屋の都市緑化を郷土種子で行えるかどうかの可能性を見出す重要なプロジェクトである。地域のNPOと植樹作業を行いながら、所有する育成した郷土種の苗の植樹先の検討及び植樹後のモニタリング調査、経年変化の把握をどのように進めていくかについて検討を進めている。

<b>⑤中部カーボン・オフセット推進協議会支援（継続）</b>	
目的	カーボン・オフセットの仕組みを地域に普及させ、地域の低炭素化を促進する。
事業概要	カーボン・オフセットについて広く普及啓発を行い、自治体、民間企業、NPO等の緩やかなネットワーク形成を支援する。メールマガジン、HPへの情報提供を行う。
事業内容：	<p>環境省の委託事業である中・西日本地域における特定地域協議会の事業実施支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第7回中部カーボン・オフセット推進協議会事務局会議出席（4月17日）</li> <li>・第8回中部カーボン・オフセット推進協議会事務局会議出席（5月23日）</li> <li>・第9回中部カーボン・オフセット推進協議会事務局会議出席（6月4日）</li> <li>・第10回中部カーボン・オフセット推進協議会事務局会議出席（6月25日）</li> <li>・第11回中部カーボン・オフセット推進協議会事務局会議出席（7月19日）</li> <li>・第12回中部カーボン・オフセット推進協議会事務局会議出席（8月10日）</li> <li>・第13回中部カーボン・オフセット推進協議会事務局会議出席（9月6日）</li> <li>・第14回中部カーボン・オフセット推進協議会事務局会議出席（10月4日）</li> <li>・第15回中部カーボン・オフセット推進協議会事務局会議出席（11月2日）</li> <li>・第16回中部カーボン・オフセット推進協議会事務局会議出席（12月4日）</li> <li>・第17回中部カーボン・オフセット推進協議会事務局会議出席（1月11日）</li> <li>・第18回中部カーボン・オフセット推進協議会事務局会議出席（2月13日）</li> <li>・第19回中部カーボン・オフセット推進協議会事務局会議出席（3月14日）</li> <li>・第20回中部カーボン・オフセット推進協議会事務局会議出席（3月21日）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メッセなごや出展支援（11月8日、9日）</li> <li>・ちゅうぶカーボン・オフセット EXPO 開催支援（12月18日）</li> <li>・カーボン・オフセット EXPO 東京 2013 出展支援（2月6日）</li> <li>・メールマガジンへの情報提供支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>vol. 7への情報提供 174件（4月4日）</li> <li>vol. 8への情報提供 174件（5月23日）</li> <li>vol. 9への情報提供 174件（6月8日）</li> <li>vol. 10への情報提供 194通（8月21日）</li> <li>vol. 11への情報提供 193通（9月3日）</li> <li>vol. 12への情報提供 193通（9月18日）</li> <li>vol. 13への情報提供 191通（10月2日）</li> <li>vol. 14への情報提供 191通（10月17日）</li> <li>vol. 15への情報提供 191通（10月29日）</li> <li>vol. 16への情報提供 191通（11月12日）</li> <li>vol. 17への情報提供 276通（11月26日）</li> <li>vol. 18への情報提供 265通（12月10日）</li> <li>vol. 19への情報提供 265通（12月28日）</li> <li>vol. 20への情報提供 262通（1月25日）</li> <li>vol. 21への情報提供 282通（2月22日）</li> </ul> </li> <li>・全国特定地域協議会「第1回 J-VER 地域推進協議会」出席（9月10日）</li> <li>・全国特定地域協議会「第2回 J-VER 地域推進協議会」出席（10月31日）</li> <li>・全国特定地域協議会「第3回 J-VER 地域推進協議会」出席（1月17日）</li> <li>・東海三県一市カーボン・オフセット推進ワーキンググループ会議出席（11月2日）</li> <li>・第1回中部カーボン・オフセット推進アドバイザリーボード会議出席（11月19日）</li> <li>・第2回中部カーボン・オフセット推進アドバイザリーボード会議出席（3月22日）</li> <li>・岐阜県産 J-VER 活用セミナー（6月18日）</li> <li>・福井県「カーボン・オフセット入門講座」（1月29日）</li> <li>・富山県「カーボン・オフセット入門講座」（2月26日）</li> <li>・石川県「カーボン・オフセット入門講座」（2月27日）</li> <li>・カーボン・オフセット取組み企業「都田建設」視察（1月11日）</li> </ul>
資金	3,000,000円
協働パートナー	中部カーボン・オフセット推進協議会
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	<p>カーボン・オフセット普及啓発のために、「メッセなごやへの出展」「ちゅうぶカーボン・オフセット EXPO の開催」支援、他メールマガジンへの情報提供、約300社が加盟するネットワークの運営支援を行った。</p> <p>他、全国の状況や今後の事業展開を検討するに、全国特定地域協議会、中部カーボン・オフセット推進アドバイザリーボード会議に出席した。</p> <p>今年度は北陸3県で理解促進のためのセミナーが開催され、その支援を行った。また、参加者アンケートよりカーボン・オフセットへのニーズを把握することができ、具現化するための支援メニューの検討など今後の北陸地域での事業展開を検討した。</p>

<b>⑥愛知県新たな公共事業「つなげる教室(仮称)」支援事業(新規)</b>	
目的	持続可能な社会を構築する為に担い手の喚起、それらを支える地域基盤（新たな公共）づくり
事業概要	実社会で実践・影響をもつイノベーターによる学びの場の創出と大学・企業・NGO・行政等の多機能の協働による学習の機会、基盤をつくる。そのために、特別アカデミー、アカデミー(体験版)、カリキュラムづくり、フォーラム(提言)を実施する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画、募集要項などの作成（4～5月）</li> <li>・第1回愛知県新しい公共支援事業「つなげる教室」事務局会議（4月26日）</li> <li>・第2回愛知県新しい公共支援事業「つなげる教室」事務局会議（5月14日）</li> <li>・第3回愛知県新しい公共支援事業「つなげる教室」事務局会議（7月19日）</li> <li>・第4回愛知県新しい公共支援事業「つなげる教室」事務局会議（9月11日）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回愛知県新しい公共支援事業「つなげる教室」事務局会議（10月16日）</li> <li>・南山大学短期学部へのヒアリング（6月27日）</li> <li>・中京大学法学部へのヒアリング（6月27日）</li> <li>・名城大学工学部へのヒアリング（7月2日）</li> <li>・名古屋工業大学へのヒアリング（7月5日）</li> <li>・椙山女学園大学へのヒアリング（7月6日）</li> <li>・愛知淑徳大学星が丘キャンパスへのヒアリング（7月6日）</li> <li>・東京福祉専門学校への事業説明（7月9日）</li> <li>・愛知淑徳大学長久手キャンパスヒアリング（7月19日）</li> <li>・名古屋学院大学へのヒアリング（8月21日）</li> <li>・学生オリエンテーション（7月18日・7月19日）</li> <li>・企画会議（9月4日・9月7日・9月14日・9月15日・9月18日・9月19日・10月18日・11月13日・12月6日・12月21日・1月8日・1月21日・2月5日・2月13日・2月19日）</li> <li>・企業視察（2月27日）</li> <li>・合宿の実施（11月23・24日）</li> </ul> <p>各チームに専門家をアドバイザーに迎え、知識・情報収取、活動展開のための意見交換等を行った。</p> <p>〈ゲスト〉</p> <p>新しいライフスタイルの提案：原伊津子先生(東浦町緒川小学校教諭)  自然環境保全：中村幹広氏(岐阜県庁森林整備課技術支援係技術主査)  日本経済：原口真氏(株式会社インターリスク総研)  メディアリテラシー：津田正夫氏(立命館大学・名古屋大学非常勤講師)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム「新しいライフスタイルの提案」：ワークショップ実施（11月4日）</li> <li>・チーム「自然環境保全」：吉田本家視察の実施（12月9日）</li> <li>・チーム「日本経済」：企業への取材依頼支援（トヨタ自動車㈱、ブラザー工業㈱、㈱オリエンタルランド、日本ガイシ㈱ステーキホルダー会議への出席）</li> <li>・チーム「メディアリテラシー」：参議院選挙、就活に関する大学生100名対象アンケート実施支援</li> <li>・チーム「広報活動」：2月23日開催のフォーラム企画支援、フリーペーパー作成支援</li> </ul> <p>・「WeChubu～持続可能な明日へ～」フォーラム開催支援（2月23日）  講演：もし今、ドラッカーが大学生だったら～持続可能な明日をどう創るか～  ゲスト：岩崎夏海氏  大学生による提案：持続可能な明日を創るために  対談：ドラッカーはこの提案をどう読むか  ワークショップ 大学生からの4つの提案について参加者を交えて意見交換  参加者：110名（内ゲスト1名、スタッフ10名、学生メンバー11名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「WeChubu～持続可能な明日へ～」活動報告集発行支援（2013年3月20日）</li> </ul>
資金	7,500,000円
協働パートナー	学生有志団体「WeChubu～持続可能な明日へ～」/ビオトープ・ネットワーク中部/株式会社インターリスク総研/特定非営利活動法人エコロジスト支援協会/愛知県/特定非営利活動法人ボランティアネイバーズ、他事業支援団体
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	<p>本事業の支援組織「つなげる教室」支援協議会のメンバーとして、事業計画書の作成、推進体制の調整、コアメンバーとなる主要大学へのヒアリングを行い、体制づくりに努めた。事業のコアメンバーになる大学生の確保と大学生を対象にしたオリエンテーションの広報及び実施、企画会議、フェイスブックの立ち上げの支援を行った。</p> <p>大学生が提案した持続可能な社会をつくるための5つの学びのテーマ「自然環境保全」「新しいライフスタイルの提案」「日本経済」「メディアリテラシー」「広報活動」の活動支援、学生有志団体「WeChubu～持続可能な明日へ～」立ち上げ支援、合宿の開催支援、多様な体験フィールド・視察の紹介、他大学講義受講のための情報収集、フェイスブックでの情報提供・コーディネートなどの支援を行った。</p> <p>大学生のESD活動として支援。大学生をつなぐ、大学間をつなぐ、大学生と企業・地域</p>

	をつなぐ、大学生と未来をつなぐをコンセプトに実施。大学生の提案による持続可能な社会をつくるためのカリキュラム作成を支援。そのための多様な地域活動、専門家、人材に出会い、大学生に必要な要素を見出した。 2月に成果報告であるフォーラムを開催支援し、3月の成果報告冊子については発行支援を行った。
--	--

## (2) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

### 1) 「持続可能なコミュニティづくりメッセ(仮称)」開催に向けた基盤整備

目的	行政、企業、NPO/NGO 等地域の多様な主体による協働事業の経験やノウハウを共有し、広域展開の事業実施、実施主体の形成、政策提案を可能にする場(メッセ)開催のための準備を行う。
事業概要	多様な主体による協働事業事例の把握、共通課題を設定し、各県で実施しているフェア等に参画し、セミナー、展示、課題解決のための対話の場づくり、マッチングを実施する。今年度は試行的に、東海1回、北陸1回、長野1回の実施予定。
事業内容	<p>当初予定していた各地域の環境フェアでのニーズ把握、対話の場づくり、マッチングの実施は行わず、上半期運営会議や各県へのヒアリングを通して、3つのテーマ①生物多様性流域圏、②再生可能エネルギー、③ESD に関する協働事業の事業化に向けてのニーズ把握をした。</p> <p>今年度は「持続可能なコミュニティづくりメッセ(仮称)」を「～サステナブルな事業を「本気」で創る～中部7県「協働」会議」とし、3月1日に開催決定。協働事業の事業化の阻害要因及び課題を明確にし、協働事業化するために必要な具体的な方策を抽出することを目的に行うこととし、①生物資源の持続的利用、②再生可能エネルギー、③ESD の3テーマにおける協働事業の事例収集を行い、企画書作成、扱う事例の共有と協議、運営委員への依頼、会場を予定している愛知大学への依頼・下見等を行った。話題提供者と調整を論点整理した。</p> <p>①再生可能エネルギーの分科会については東北 EPO と連携し、震災経験による地産地消エネルギー創出について協議も行うこととした。協働事例発表者、コーディネーターの正式依頼をし、分科会及び全体会の設計を行った。</p> <p>、東海3県と長野県における里山、里海の生物資源の持続的利用をテーマに、商品化して地域循環させている事例やオーガニック食材の流通や販売をしている団体を招き、いかにビジネスとして継続させるしくみを作るかについての経験共有、課題検討の場をつくった。</p> <p>②については、各地域の再生可能エネルギーに関する取組について共有し、共通課題である収益構造、支援者普及、技術利用、地域のしくみ化などのノウハウの共有、検討がなされた。また東北で再生可能エネルギー普及をされている専門家と東北 EPO のスタッフをゲストに招き、地産地消エネルギー、地域循環のしくみの重要性を再確認した。</p> <p>③については、学校、教育委員会、ユネスコスクール支援大学、ユネスコ協会から話題提供いただき、国立教育政策所でESD 研究をされている専門家をゲストに、今後の学校と地域の連携におけるESD 普及について議論した。学校と地域のコミュニケーションをいかにとるか、多忙である教員や学校にどうアプローチするか、教員の研修、資金調達などの課題を共有し、論点とした。</p> <p>～サステナブルな事業を「本気」で創る～中部7県「協働」会議開催 2013年3月1日(金) 13:00～17:30 協働事例発表者：21団体(各テーマ7団体) 協働事業実施ゲスト：2団体 参加者：110名(生物多様性31名 再生可能エネルギー：44名 ESD：31名 他4名) 後援：愛知学長懇話会</p>
協働パートナー	運営会議委員、行政、企業、NPO/NGO(中間支援組織)、市民、他
評価指標・方法	指標：協働事例の把握度、設定した課題や手法の妥当性、目的達成度、等

	方法：実施主体、参加者へのヒアリング
成果・評価	各分科会にて、①事業化するための共通の阻害要因・課題の共有、②広域で解決すべき共通のアプローチ・方策の検討 ③そのための必要なリソース・支援について協議をした。中部7県において3つの領域ではあるが、協働事業における課題、阻害要因などを把握することができた。 今後、公募方法や地域ニーズに基づく企画内容を検討し、実施のための基盤形成のための方策を検討する行。参加者アンケートより、開催地、事例発表内容やテーマ数、会議設計について意見を得ているので、検討の素材とする。

## 2) 「持続可能なコミュニティ形成のためのマルチステークホルダー会議(仮称)」開催に向けての地域ニーズ把握や実施主体形成等基盤整備

目的	「持続可能なコミュニティづくりメッセ(仮称)」で扱った共通課題を解決する為に、環境、経済、社会の統合を念頭に、国として取り組むべき領域を超えた協働事業の実施のための、マルチステークホルダー会議の準備をする。
事業概要	管轄内の具体的地域課題を把握し、関係するステークホルダーを対象に会議開催のための予備調査を行う。今年度は試行として、「どのような地域課題があり現状どう解決策が図られているか」「どのような協働事業が展開されているか」をヒアリングし、特に自治体の持続可能なコミュニティ形成のための政策についての状況を把握する。
事業内容	上半期運営会議や各県へのヒアリングを通して、3つのテーマ①再生可能エネルギー、②生物多様性流域圏、③ESD に関しての協働事業の事業に向けてのニーズ把握をした。今年度は「中部7県協働会議」として3月1日の開催を決定。協働事業の事業化の阻害要因及び課題を明確にし、協働事業化するために必要な具体的な方策を抽出することを目的に行うこととし、「生物資源の持続的利用」「再生可能エネルギー」「ESD」「生物資源の持続的利用」の3テーマにおける協働事業の事例収集を行い、扱う事例の共有と協議、課題の抽出、マルチステークホルダーの把握、情報収集をした。 ～サステイナブルな事業を「本気」で創る～中部7県「協働」会議開催 2013年3月1日(金) 13:00～17:30 協働事例発表者：21団体(各テーマ7団体) 協働事業実施ゲスト：2団体 参加者：110名(生物多様性31名 再生可能エネルギー：44名 ESD：31名 他4名) 後援：愛知学長懇話会
協働パートナー	運営会議委員、自治体、中間支援組織、協働事業を実施しているNPO/NGO、
評価指標・方法	指標：協働事業実施の可能性(ニーズ、シーズ、実現可能性、主体、他)の把握、等 方法：実施主体、関係者へのヒアリング
成果・評価	中部7県において3つの領域ではあるが、協働事業における課題、阻害要因などを共有し、広域かつ国の施策と連動して解決に近づくために方策を検討することができた。また、参加者アンケートより、開催地、事例発表内容やテーマ数、会議設計について意見を得た。今後、協働事業の事業化の課題を解決するために、テーマ、主体をクロスミックスさせて、どのような施策であれば協働事業の事業化が促進するかを再検討するマルチステークホルダーによる会議体を設置する。

## 3. EPO 中部運営会議の開催等

①「EPO 中部運営会議」の運営	
目的	事業方針・計画の検討と承認、事業実施及び支援、評価を行う。
事業概要	運営会議委員の参画を得て、それぞれの専門性により事業方針・計画の検討と承認、事業実施及び支援、評価を行う。評価については、EPO 中部の3ヶ年目標に対する評価指標を運営会議で作成し、ステークホルダー及びスタッフによる事業評価の内容を受け、事業内容の改善、質の向上等を図る。

	年3回実施（北陸1回・東海1回・合同1回）
事業内容	<p>運営委員及び企業団体を対象にヒアリングを行い、地域課題解決のためのニーズ、EPOへの期待、協働すべき事業について把握した。</p> <p>北陸及び東海・長野地域で各1回運営会議を開催した。主には地域のオーナーシップを前提とし、「再生可能エネルギー」「生物多様性流域圏」「ESD」などのテーマによる広域連携の必要性が協議、事業計画案が合意された。6月に開催した運営会議の議事録を作成し配信した。</p> <p>「自然ふれあい DAY in 信州」に出席し、長野県における再生可能エネルギーの取り組みを把握し、長野担当の運営委員と意見交換をした。</p> <p>北陸地域の運営委員へのヒアリングや下半期事業に関して問合せのあった運営委員との意見交換を行った。4月実施予定のプレメッセ企画を検討するにあたり、運営委員と情報交流を行い、実施すべきテーマ、内容のたたき台を作成した。</p> <p>下半期の運営会議日程を決定し、3月12日下半期運営会議を開催した。今年度業務報告を実施し、次年度に向けてのEPOが担うべき役割、特に、2014年に向けたESD事業の展開、協働会議の今後の展開についてのアドバイス、意見を共有した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県環境部、長野県環境保全協会、長野NPOセンターへヒアリング（4月12日）</li> <li>・福井県安全環境部、石川県環境部、富山県生活環境文化部へヒアリング（4月18日）</li> <li>・四日市大学総合政策学部、三重県環境生活部、岐阜県環境生活部、NPO法人ぎふNPOセンターへヒアリング（4月24日）</li> <li>・愛知県環境活動推進課へのヒアリング（5月8日）</li> <li>・名古屋商工会議所へのヒアリング（5月15日）</li> <li>・中部経済連合会へのヒアリング（5月22日）</li> <li>・EPOC総合事務局へヒアリング（5月23日）</li> <li>・名古屋市環境教育担当へヒアリング（5月24日）</li> <li>・北陸地域運営会議（6月6日）</li> <li>・東海・長野地域運営会議（6月11日）</li> <li>・下半期運営会議（3月12日）</li> <li>・自然ふれあい DAY in 信州 参加（8月20日）</li> </ul>
協働パートナー	運営会議委員
評価指標・方法	<p>指標：適正運営、目標達成、等</p> <p>方法：運営委員へのヒアリング</p>
成果・評価	<p>年度当初に運営会議委員及び管轄地域の行政及びヒアリングをし、今年度の目標である「EPO中部の目標・方針を管轄地域に明確に打ち出し、管轄内の協働に関する現況を把握し、国と地域が協働して実施すべき事業を検討、実施する。管轄内のステークホルダーとの関係性を広げ、深める」の達成に向けて、多様な主体の補完性による協働事業を「事業化するための事業」を検討した。3月に「中部7県協働会議」を行うこととし、その間も電話、メールなどで運営委員へのニーズ把握、情報収集に努めた。</p> <p>「中部7県協働会議」が管轄の協働事業の把握、マルチステークホルダーの発掘、基盤整備、協働事業の事業化の第一歩となった。</p> <p>運営会議委員の出席が少なかったが、今後成果を共有し、次年度展開の検討をする。下半期運営会議にて、今年度業務報告を実施。次年度に向けてのEPOが担うべき役割、特に、2014年に向けたESD事業の展開、協働会議の今後の展開についてのアドバイスをいただき、次年度事業の検討をした。</p>

#### 4. その他

①環境省、中部地方環境事務所との対話	
目的	環境省、地方環境事務所と対話をし、国の機関、協働促進機関としてあり方を検討し、そのために必要な事業を実施する。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省が発行する報告書や重点施策に関するセミナーを連携で実施</li> <li>・中部地方環境事務所が実施する施策とのコラボレーション</li> <li>・EPOのありかたについての意見交換や情報提供</li> <li>・中部地方環境事務所との定例会議（月1回）</li> <li>・中部地方環境事務所主催会議のための資料の作成（外部評価等）</li> <li>・運営上必要な書類等中部地方環境事務所の担当官と協働で作成</li> </ul>
事業内容	<p>・定期会議（4月10日・5月8日・16日・7月19日・8月23日・9月11日・10月15日・11月6日・12月11日・1月8日・2月1日・2月15日）</p> <p>※5月に2回開催したため6月は開催をしなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度環境教育担当者会議（7月13日）</li> <li>・サステイナブルビジネス支援協議会会議（1月8日）</li> <li>・環境教育等実務者ミーティング（3月13日）</li> </ul>
協働パートナー	環境省、中部地方環境事務所
評価指標・方法	<p>指標：対話の場の実施と効果、等</p> <p>方法：関係者による事業評価</p>
成果・評価	<p>定期会議の開催とともに、各主要施策（環境教育法改正説明会、全国環境施策説明会、生物多様性国家戦略改訂説明会、環境白書から読み取るグリーンイノベーションなど）に係る広報など適宜意見交換し進めた。本年度事業の進捗状況の共有と展開についての検討、国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）生物多様性地域セミナー in 名古屋開催に当たっての企画及び情報共有等を行った。平成24年環境教育担当者会議に出席。3月開催の中部7県協働会議の企画検討及び実施、ESD事業について協議を行った。熊本での全国EPO連絡会での検討内容などを踏まえ、次年度のEPO中部の取り組みについて検討した。</p> <p>環境省とは、主に環境教育推進法改正、ESD事業についての情報及び意見交換をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育推進法改正に関して意見交換をしたことで、管轄地域の環境教育に関する施策に対してのアドバイス、提案ができた。</li> <li>・ESD事業に管轄地域の実践状況を情報提供することで、施策の具体的展開（+ESD事業等）につながった。</li> <li>・EPOを活用してより環境省施策が効果的に地域で展開されるようコミュニケーションを深める。</li> <li>・協働取組の促進事業の検討。</li> </ul> <p>地方事務所とは、管轄地域の今年度事業の把握と共通課題の設定、3月に実施した中部7県協働会議の企画検討をし、実施した。</p> <p>地方事務所主催の、サステイナブルビジネス支援協議会、中部カーボン・オフセット推進アドバイザーボード会議に出席することで、協働による次の展開が生み出せる方向性が見られた。また、長野で実施した環境教育等実務者ミーティングでは、環境省の情報とEPO中部の持っている中部7県の多様な主体による実践報告をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方事務所と補完しあうことで、管轄地域自治体と民間の協働による事業促進ができた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ESD 事業についてより協働による事業展開を検討する。</li> <li>・ 2014 年に向けての共通目標を設定する。</li> <li>・ 今年度の協働会議の成果・反省を含め次年度の協働会議の目標を参加者ニーズ、地域ニーズを把握しつつ設定する。</li> <li>・ 運営会議委員、各事業のステークホルダーの補完性による EPO がすべき事業の検討をする。</li> </ul>
--	--

②全国 EPO 連絡会議への参加	
目的	全国 EPO と連携して、全国 EPO ネットワークで取り組むべき事業や共通課題の共有及び解決のための意見交換や提案づくりを行う。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国 EPO 連絡会への参加</li> <li>・ 全国 EPO が連携して取り組むべき課題の共有と事業の検討</li> <li>・ EPO 事業の評価、総括</li> <li>・ EPO 事業の今後の役割及び事業展開についての意見交換</li> </ul>
事業内容	<p>全国 EPO 連絡会に出席し、全国 EPO ネットワークの共通業務の評価指標やスタッフ研修プログラム、EPO がすべき今後の事業についての提案をした。</p> <p>EPO 東北作成「3. 11 あの時」冊子や EPO 北海道作成の「もうひとつの北海道環境白書 2012」の広報、各地域温暖防止活動センターを対象にした調査への協力、パートナーシップ事例・環境 NPO リストアップ作業、EPO スタッフインターン受入などを行った。</p> <p>また、2014 年持続発展教育に関するユネスコ会議に向けての意見交換会（全国 EPO 連絡会 ESD 情報共有会（仮称））に出席した。地球環境基金の説明会のありかたや地域に求められる助成制度についての意見交換をした。</p> <p>※ 3 月に開催したプレメッセ企画（中部 7 県協働会議）においては東北 EPO と連携して、被災地の再生可能エネルギーの捉え方を学び、地産地消エネルギーの事業化を検討する場を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国 EPO 連絡会（6 月 12 日～13 日）</li> <li>・ 全国 EPO 連絡会 ESD 情報共有会（仮称）出席（7 月 13 日）</li> <li>・ 全国 EPO 連絡会出席（11 月 28 日～29 日）</li> <li>・ 関東 EPO スタッフインターン受入れ（11 月 5～11 日）</li> <li>・ EPO 中国視察、意見交換（11 月 15 日）</li> <li>・ きんき環境館職員来館意見交換（12 月 21 日）</li> <li>・ EPO 東北「中部 7 県協働会議」にゲストとして出席（3 月 1 日）</li> <li>・ GEOC スタッフと次年度事業について打合せ（3 月 21 日）</li> </ul>
協働パートナー	全国 EPO、環境省、中部地方環境事務所
評価指標・方法	<p>指標：会議の実施とその効果、等</p> <p>方法：関係者による事業評価</p>
成果・評価	<p>EPO 共通で実施する事業の質向上のための意見交換をし、共通で取り組むべき事業の整理をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共通業務についての意識づけができた。</li> <li>・ 共通業務の質を向上させるための分析の必要性がある。（いかに EPO ネットワークが課題解決のために必要か、有効であるかなど）</li> <li>・ ESD ユネスコ世界会議、地球環境基金説明会など全国にある拠点機能の活用方法など。</li> </ul>



参考資料 1.

1. 相談業務内容

テーマ	相談内容
震災関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>*被災地の小学校へのランドセル寄付について</li> <li>*被災地への物資支援受入団体について(2)</li> <li>*被災地への書籍の寄付について(2)</li> <li>*不要になった玩具、おもちゃの寄付</li> <li>*震災&amp;再生エネルギー普及に関する意見・要望について</li> <li>*被災地での再生可能エネルギー交流会の企画について</li> </ul>
環境教育 (学習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*愛知県環境教育学習行動計画策定委員について</li> <li>*環境学習フィールドについて</li> <li>*人材育成講座、環境学習事業内容について</li> <li>*藤前干潟への環境教育について</li> <li>*エコクッキング指導者について</li> <li>*森林教育プログラムについて</li> <li>*環境学習実践学校の紹介(2)</li> <li>*生物多様性に関する授業展開について</li> <li>*長野県環境教育ネットワークについて</li> <li>*中学生の訪問視察の依頼について</li> <li>*ごみの分別や削減に取り組んでいる学校紹介について</li> <li>*キッズ ISO について</li> <li>*おりがみプロジェクトの今後の展開について(3)</li> <li>*こどもホタレンジャーの募集及び広報協力について</li> <li>*改正教育法について</li> <li>*名古屋市春田小学校視察について</li> <li>*FM あいちエコメンド環境学習実践校の紹介について</li> <li>*名古屋市環境情報提供システムについて</li> <li>*欧州の環境教育について</li> <li>*環境教育・保全活動に関する助成金情報について</li> <li>*愛知県内の環境学習実践校について</li> <li>*JICA コロンビアスタッフの研修受入について</li> <li>*環境教育推進法による「体験の機会」の場の認定制度について</li> <li>*環境講座の講師に関して</li> <li>*愛知県環境学習講座企画について</li> <li>*環境教育コーディネーターの紹介(3)</li> <li>*環境教育コーディネーターについて</li> <li>*環境教育実践可能な場所について</li> <li>*環境の仕事セミナー広報について</li> <li>*環境教育実践校の紹介について</li> <li>*環境学習、協働に関して</li> <li>*環境学習、教育への取り組み等に関して</li> <li>*環境教育実践者指導に関する研修について</li> <li>*愛知県における環境教育の取り組みについて</li> <li>*愛知県における今後の環境学習のありかたについて</li> <li>*愛知教育大学エコプロジェクト成果報告会への出席について</li> <li>*FM あいちエコメンド出演者紹介について</li> <li>*1/17(木)南陽中学校1年生職場体験学習について</li> <li>*三重県の海の環境教育について</li> <li>*三河木綿をテーマに環境学習を実施している団体について</li> <li>*小学校への出前講師について</li> </ul>

ESD	<ul style="list-style-type: none"> <li>*中部 ESD 拠点プロジェクト関連について(4)</li> <li>*ESD に関する取組及び愛知県内の実践状況について</li> <li>*ユネスコスクールの登録について(4)</li> <li>*ESD 研究会の企画について</li> <li>*ESD 普及啓発イベントについて(2)</li> <li>*大学生を対象にした ESD 授業について</li> <li>*ESD 最終年会合 2 年前イベントについて</li> <li>*学校における ESD 的緑のカーテンについて(3)</li> <li>*ACCU について</li> <li>*小学校での ESD 授業について</li> <li>*ESD 人材育成事業の広報について</li> <li>*+ESD プロジェクトについて</li> <li>*ESD の主流化について</li> <li>*ESD 授業実践の内容について</li> <li>*FM 愛知出演小中学校の紹介について</li> <li>*ESD 活動への助成金について</li> <li>*ESD の概念と取組について</li> <li>*愛知県地球温暖化防止活動推進員 ESD 研修依頼(2)</li> <li>*三重県環境学習センターESD 研修・講座について(3)</li> <li>*高等学校への ESD 研修について</li> <li>*ESD 授業をする気象予報士の紹介について</li> <li>*中部 ESD 拠点記者発表について</li> <li>*中日新聞 ESD 記事掲載について(3)</li> <li>*全国学びあいフォーラムの打合せについて</li> <li>*ユネスコスクール申請登録・現状について(4)</li> <li>*ESD 調査報告書について</li> <li>*中部 ESD 拠点及び EPO 中部、中部地域の ESD 事業について</li> <li>*なごや環境大学 ESD コラム原稿依頼</li> <li>*全国学びあいフォーラム出演者紹介について</li> <li>*ESD キャッチ募集広報について</li> <li>*学校と地域の連携による ESD 実践の可能性について</li> <li>*ESD 授業実践のカリキュラムについて</li> <li>*高等学校の ESD 取り組みについて(3)</li> <li>*企業と ESD、CSR 活動について(2)</li> <li>*高等学校 ESD コンソーシアム in 愛知について</li> <li>*ESD を普及するためのワークショップなどについて</li> <li>*ESD 実践を拡大する為の仕組みについて</li> <li>*ESD 授業の講師について</li> <li>*中部 ESD 拠点の事業について(2)</li> <li>*愛知教育大学 ESD 企画について</li> <li>*愛知県内 ESD に取組状況について(5)</li> <li>*ESD2014 に向けての取り組みについて</li> <li>*大阪府立大学伊井先生紹介について(2)</li> <li>*次世代と ESD 出演者とのネットワークについて</li> <li>*環境学習と ESD について</li> <li>*ESD 活動に取組む為の助成金情報について(2)</li> <li>*ESD 研修企画のためのアドバイスについて</li> <li>*ESD ついて(2)</li> <li>*愛知県 ESD キャッチコピーについて</li> <li>*ESD 事業の現状について(2)</li> <li>*豊田市での ESD 実践について</li> <li>*豊橋市の ESD 実践について</li> <li>*NPO による ESD 実践の企画および予算について</li> <li>*ESD に関する書籍、情報収集について</li> </ul>
-----	---

\*ESDに関する資料及びプログラムについて  
 \*教育委員会、小中学校のESD取り組みについて  
 \*環境デーなごやのESD企画、出展団体について  
 \*ESD研修講師紹介について  
 \*愛知県内のESDイベント開催状況について  
 \*衣服をテーマにしたESD授業カリキュラムについて  
 \*三河木綿に関する情報について  
 \*全国学びあいフォーラム広報について  
 \*ESD広報のための新聞記事掲載について  
 \*企業のエコ活動をテーマにしたESD授業カリキュラムについて  
 \*常盤南小学校視察について  
 \*自治体職員対象のESD研修について  
 \*ミツバチに関するセミナーの広報について  
 \*ESD実践について  
 \*愛知県環境活動推進課ESD研修の資料について  
 \*岡山市の高等学校のユネスコスクールの現状について  
 \*10/27(土) 学びあいフォーラム司会依頼について  
 \*11/3-4 モリコロパークESD2年前イベントの発表時間調整について  
 \*キャリア教育講師紹介について  
 \*ESD事業への参画について  
 \*ESDのためのKODOMOラムサール事業広報について  
 \*企業のCSRに関するESD授業カリキュラムについて  
 \*食育及びESDについて  
 \*ESD資料請求について  
 \*伊勢三河湾のNPO活動、環境学習実践について  
 \*三重県でのESD実践について(3)  
 \*ESD原稿の送付について  
 \*中部ESD拠点による流域ESD講座について  
 \*サステイナブルブック400冊送付について  
 \*ESD2012フォーラム広報について  
 \*ESD-JとEPOとの連携について  
 \*あいちESDフェスタ2012について  
 \*名古屋市ESD事業展開について  
 \*ESD研修について(3)  
 \*ESD2014支援実行委員会研修について  
 \*ESD冊子「サステイナブルブック」の入手について  
 \*ESDについて(2)  
 \*+ESD登録について(2)  
 \*次年度ESDに使える補助金、助成金について  
 \*ESD普及啓発方法について  
 \*ESDに関してフィールド提供について  
 \*ESDに関する書籍の広報について  
 \*愛知県ESD会議支援室広報依頼について  
 \*環境教育、ESDに関する企画及び情報について  
 \*高校におけるESD実践について  
 \*豊田市でのESD勉強会企画について  
 \*ESDイベントについて  
 \*名古屋市環境教育、ESD担当者の紹介について  
 \*中部ESD拠点ワークショップ広報について  
 \*愛知県内のESDに取り組むNPOについて  
 \*豚をテーマにしたESDのプログラムづくりについて  
 \*1月27日ESDイベントに関して  
 \*ESDセミナー広報について  
 \*高校生のESD活動について

	<ul style="list-style-type: none"> <li>*ESD ユネスコ会議について</li> <li>*国内の ESD 教材について</li> <li>*ESD プログラムについて</li> <li>*中部 ESD 拠点について</li> <li>*ユネスコスクール全国大会の情報について</li> <li>*高校生コンソーシアム IN 愛知への参加について</li> <li>*フェアトレードについてのイベント紹介</li> <li>*名古屋をフェアトレードにしよう会呼びかけ人について</li> <li>*フェアトレード講師について</li> <li>*フェアトレードタウンイベント広報について</li> <li>*刈谷高等学校 ESD 授業展開について (2)</li> <li>*岡崎市の中学校での ESD 授業カリキュラムについて</li> <li>*愛知県総合教育センターESD 研修について</li> <li>*名東高校 ESD 実施について</li> <li>*平成 24 年度教育改革国際シンポジウム (国立教育政策研究所) への出展について (2)</li> <li>*女性をテーマにした ESD イベントについて</li> <li>*愛知県の ESD の状況について</li> <li>*とよたエコ人プロジェクトとより ESD 資料について</li> <li>*ESD 資料について</li> <li>*「とよたで (の) ESD を学ぼう！」について</li> <li>*ESD に関連するフォーラムについて</li> <li>*ESD の今後の方向性について</li> <li>*授業の ESD 化について</li> <li>*環境省 ESD 事業申請について</li> <li>*ESD-J ニュースレター原稿について</li> <li>*ESD 授業のつくりかたについて</li> <li>*野生生物の写真展と ESD について</li> <li>*ESD イベント企画について</li> <li>*企業の ESD の取り組みについて</li> <li>*ESD ポストカードデザインについて</li> <li>*フリースクールと ESD について (2)</li> <li>*「伝統文化と ESD」～自然、風土を生かした持続的な発展を目指して～広報について</li> <li>*伊勢湾再生と ESD について</li> <li>*ユネスコスクールについて</li> <li>*こどもラムサール、ESD 活動について</li> <li>*2014 年 ESD 子ども会議について</li> <li>*次年度環境教育事業について</li> <li>*なごや環境大学共育ゼミナール広報について</li> <li>*登校拒否生徒の支援について</li> <li>*伊勢湾再生と ESD について</li> <li>*2014 年 ESD 国際会議について</li> </ul>
生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> <li>*外来種捕獲について</li> <li>*おりがみアクションプログラムについて</li> <li>*企業の生物多様性取組の展開について (3)</li> <li>*伝統野菜の種を扱っている団体について</li> <li>*生物多様性国家戦略改訂に関する説明会について</li> <li>*みえ多様性活動発表会交流会 (仮称) 開催について</li> <li>*生物多様性保全に関するフォーラム広報について</li> <li>*名城公園で蝶の観察会の広報について</li> <li>*生物多様性に関する取材について</li> <li>*国連生物多様性の 10 年日本委員会 生物多様性地域セミナー in 名古屋企画及び広報について (2)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>*COP11 について</li> <li>*企業の CBD 情報について</li> <li>*東山植物園洋風庭園アイデア審査について</li> <li>*郷土種子事務局について</li> <li>*三重県での里山保全活動について</li> <li>*郷土種子事業について</li> <li>*愛知の森林づくりについて</li> <li>*2013 年 2 月生物多様性フォーラムチラシ送付について</li> <li>*自然環境の教育的機能についてのアンケートや愛知県の代償ミティゲーションについて</li> <li>*タイムカプセル@東山のスピーチについて</li> <li>*おりがみプロジェクトプレゼンテーションについて</li> <li>*おりがみアクション支援について</li> <li>*にじゅうまるプロジェクトへの企業の参加について</li> <li>*動物に関する講義をする講師紹介</li> <li>*企業の生物多様性取組について (2)</li> <li>*生物多様性フォーラム広報について</li> <li>*動物に関する写真展開催について</li> <li>*台湾自然生態保全協会名古屋訪問について</li> <li>*森林づくりの今後の事業展開について</li> <li>*食農循環事業ビジョン検討会について</li> <li>*全国の森づくりの状況を把握している団体の紹介</li> <li>*中小企業の生物多様性取組について</li> <li>*協働種子協議会の現状について</li> <li>*国連生物多様性の 10 年日本委員会」(UNDB-J) では、生物多様性に関する子ども向け推薦図書展示について</li> <li>*名古屋の森林生態系の生物指標と生態系サービスの総合評価に関するワークショップ広報について</li> <li>*日本の野鳥の会のツバメ調査結果について</li> </ul>
気候変動	<ul style="list-style-type: none"> <li>*カーボンフットプリントの活用方法について</li> <li>*中部エネルギー会議の今後について</li> <li>*環境省 ASSET 施策について(2)</li> <li>*エネルギー環境会議国民的討議について(2)</li> <li>*愛知県地球温暖化防止活動推進センター原稿依頼について</li> <li>*長野県での自然エネルギーイベント広報について</li> <li>*愛知県温暖化施策の情報発信協力について</li> <li>*気候変動に関するユースのイベント広報について</li> <li>*温暖化防止行動についての原稿執筆依頼について</li> <li>*カーボン・オフセット寄付金配分郵便事業について</li> <li>*再生エネルギーに関する自治体状況について</li> <li>*省エネルギーに関しての最新実践事例について</li> <li>*森林バイオマスの J-VER 利用について</li> <li>*中部カーボン・オフセット推進ネットワーク新聞広告掲載について</li> <li>*エネルギー・環境問題に関する大学生対象アンケート調査について</li> <li>*カーボン・オフセットに関心のある事業者について</li> <li>*JVER、再生可能エネルギー事業について</li> <li>*被災地の再生可能エネルギー交流会について</li> <li>*スマートムーブ広報について</li> <li>*地球温暖化に関する環境 NPO について</li> <li>*愛知県地球温暖化推進会議委員について</li> <li>*地球温暖化インタビュー紹介について</li> </ul>
自治体関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>*三重県森林環境税導入について(5)</li> <li>*森林環境税の他県の取組について</li> <li>*教育委員会の環境プログラムの企画について</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>*名古屋市野鳥観察館の広報について</li> <li>*名古屋市東山動植物園再生プラン会議について</li> <li>*名古屋市東山総合公園洋風庭園のアイデアコンペについて</li> <li>*愛知県環境月間県民の集いイベントの広報について</li> <li>*あいち自然環境保全戦略推進委員会について</li> <li>*東郷町の環境施策について</li> <li>*環境白書を読む会の広報について</li> <li>*環境省「みどり香るまちづくりのアイデア」募集について</li> <li>*環境省でここまで進められて来た廃棄物情報管理のマニフェストについて、</li> <li>*制度設計、システム設計ならびに IT インフラの提供、特に電子マニフェストシステムの海外政府への展開等について</li> <li>*小型家電リサイクル法について</li> <li>*名古屋市環境局事業広報について</li> <li>*名古屋市アセスのメルマガ発行について</li> <li>*名古屋市緑政土木局次年度事業について</li> </ul>
企業関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>*企業 CSR 報告書の内容について</li> <li>*日立ソリューションズの社会貢献プログラムについて</li> <li>*花王 NEO キャンペーン寄付先団体の作成(2)</li> <li>*商工会議所の新しい役割について</li> <li>*青少年グローバルプログラム広報について</li> <li>*NPO 等を対象にした「ステークホルダーダイアログ」の企画開催について(2)</li> <li>*EPOC 総会について</li> <li>*Panasonic NPO サポートファンド広報について</li> <li>*環境報告書への執筆依頼について</li> <li>*パナソニックエコシステムズ(株)絵画コンクール審査員について</li> <li>*名古屋 TV 塔事業広報について</li> <li>*ステークホルダーダイアログについて</li> <li>*ステークホルダーダイアログ企画について</li> <li>*企業ステークホルダーダイアログ企画について</li> <li>*ステークホルダー会議の出席者について</li> <li>*東邦ガス(株)ステークホルダーダイアログゲストについて</li> <li>*日本ガイシ(株)ステークホルダー会議について</li> <li>*富山県企業と NPO のマッチングイベントについて</li> <li>*韓国企業の CSR 参加について</li> <li>*企業の CSR 報告書に掲載する気候変動に関するインタビューの紹介について</li> <li>*企業の ESD 活動展開について</li> </ul>
NPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>*NPO 支援に関する基金について</li> <li>*みえきた市民活動センターによるラジオ出演について</li> <li>*間伐作業に参加が可能な NPO 団体について</li> <li>*森林間伐の最新情報について</li> <li>*アカウミガメ保護の為にテーマソングについて</li> <li>*スタディツアーの紹介</li> <li>*答志島清掃広報について (2)</li> <li>*中間支援組織、ボランティア組織についての講師派遣について</li> <li>*三重県の中間支援組織の状況について</li> <li>*ボランティア情報について</li> <li>*NPO/NGO 調査について</li> <li>*中部地域の流域での NPO 活動状況について</li> <li>*NGO 海外エコツアーの紹介について</li> <li>*福井県生活学校連絡協議会節電、省エネ活動団体の紹介について(2)</li> <li>*伊勢湾流域で活動している環境 NPO について</li> <li>*伊勢湾一斉清掃に向けた保険と清掃用具貸出について</li> <li>*NPO スタッフ研修講師について</li> <li>*藤前干潟イベント広報について</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>*清掃活動への助成について</li> <li>*環境らしんばんへの登録について</li> <li>*奈佐の浜プロジェクト広報について</li> <li>*海関連の講演会の広報について</li> <li>*三重県環境 NPO 設立について</li> <li>*NPO について</li> <li>*岐阜県高山市の NPO について (2)</li> <li>*NPO 交流会への出席について</li> </ul>
パートナーシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>*なごや環境大学プレゼン大会企画について(2)</li> <li>*東海地域の環境に関するマッチング事業について</li> <li>*協働に関する講座の広報について</li> <li>*北陸における環境協働活動調査報告会広報について</li> <li>*国民的討論の報告について</li> <li>*環境商品に関する WEB マッチングについて</li> <li>*企業と NPO に関するイベント広報</li> </ul>
EPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>*EPO 中部の今後の取組について</li> <li>*EPO 中部の ESD 取組について</li> <li>*最近の環境施策について</li> <li>*EPO 中部のインターンシップメニューについて</li> <li>*EPO 事業に関する印刷案件について</li> <li>*EPO 中部へのインターンについて</li> <li>*EPO ネットワーク協働事例収集について</li> <li>*EPO 中部の事業について</li> <li>*インターン受入について (2)</li> <li>*社員のインターンシッププログラムについて</li> <li>*HP 掲載について</li> <li>*EPO 中部について</li> <li>*地域の NPO について</li> </ul>
他	<ul style="list-style-type: none"> <li>*リユースカップのレンタルについて</li> <li>*三重県多気郡の地域資源について</li> <li>*助成金情報掲載依頼</li> <li>*ソーシャルビジネスに関する書籍の問合せ</li> <li>*環境に関する就職先について</li> <li>*リオ+20 に参加する東海地域の団体など</li> <li>*リオ+20NGO ネットワークへの登録について</li> <li>*学生 EXPO について</li> <li>*犬の騒音について</li> <li>*化石、隕石について</li> <li>*RIO+20 報告会について</li> <li>*GBO、JBO 資料について(2)</li> <li>*地球環境基金戦略講座企画提案について</li> <li>*東海地域の環境活動マッチング交流会について</li> <li>*メルマガ登録希望について</li> <li>*藤前干潟ふれあいデー2012 ESD のための KODOMO ラムサール」 イベント参加について</li> <li>*東海地域のコミュニティビジネスについて</li> <li>*ジビエを扱うレストランの紹介について</li> <li>*森と親しみツアー募集の広報について</li> <li>*捨て猫のチラシについて</li> <li>*地域の環境市民活動 助成金セミナー広報について</li> <li>*愛知教育大学環境報告書執筆について(2)</li> <li>*太陽光ニュートリノについて</li> <li>*サステイナブルビジネス支援研究会について</li> <li>*市民ファンド設立に関する呼びかけ人紹介について</li> </ul>

- \*食農循環事業ビジョン検討会について
- \*「環境の仕事」講座の講師紹介について
- \*エネルギー問題と環境アセスメント広報について
- \*新しい公共フォーラム」（仮称）分科会 実施団体・テーマ募集について
- \*海のフェスティバル広報について
- \*害虫管理暫定マニュアルの取り寄せ方法について
- \*助成金選考委員について
- \*市民ファンドの設計について
- \*ファシリテーション研修の広報について
- \*あおぞら財団事業広報について
- \*公益信託オータケ記念愛知県自然環境保護基金募集について
- \*モリコロ基金申請書類に関して
- \*地球環境基金説明会実施について（４）
- \*助成金申請書類について
- \*助成金広報について
- \*東海３県の自治体の助成金について
- \*オーガニック野菜を販売している場所について
- \*HP 掲載の依頼について
- \*感性工学調査依頼について
- \*郵便事業企画について
- \*講座広報について（３）
- \*選挙に対する学生対象アンケート内容について
- \*新城市で行われている整備事業、河川整備について
- \*生活レシピフォーラムについて
- \*助成団体より広報協力について
- \*低周波被害について
- \*愛知県のモノづくりに関する授業を実施している講師の紹介
- \*大学生が通える児童館について
- \*三重大学農学部の先生について
- \*次年度の RISA 掲載原稿について
- \*環境アセスの講演会広報について
- \*JST「とっておきの生活レシピ」について（３）
- \*市民ファンドに関する委員会の委員について
- \*メディアリテラシーに関する大学教員について
- \*協働会議開催時間について
- \*生活レシピの掲載について
- \*イベント広報について
- \*中国からの大気汚染について
- \*コミュニティアクションのイベント広報の件
- \*大学生のフォーラムについて（７）
- \*刈谷市環境支援員育成講座について
- \*なごや環境大学プレゼン大会協力について
- \*名古屋をフェアトレードタウンにしようイベント広報について
- \*エコプロジェクト報告会（愛知教育大学）について
- \*日本の違法伐採対策に関する講座の広報について
- \*大学生のエコ活動について
- \*西の浜クリーンアップ活動について
- \*オーガニック映画祭・試食会について
- \*フリースクールについて
- \*新しい農ある暮らしとエネルギーについて
- \*「サスプログラム」成果報告会広報について
- \*Nature Clean クリーンアップについて
- \*環境コミュニケーションのミニ勉強会について
- \*「有機農業からはじまる知産知消のまち創り」勉強会お知らせについて

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>*「森の健康診断」から「木の駅・薪ボイラー」へ講座広報について</li><li>*2013年度環境デー名古屋について</li><li>*あいちコミュニティ財団について</li><li>*三重県の海や川のごみの現状の写真について</li><li>*サスプログラム支援会議広報について</li><li>*名古屋市みどりの審議会部会委員について</li><li>*環境デー名古屋のステージについて</li><li>*最近の気象について</li><li>*地球環境基金の結果発表の時期について</li><li>*楽しい海の勉強会のお知らせについて</li></ul> |
|---|

## 参考資料 2

# 平成 24 年度中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）運營業務計画書

## 1. EPO 中部第 3 期目標(平成 24～26 年度)と方針

### 【第 3 期目標】

持続可能なコミュニティ形成に向け、環境、経済、社会の統合を可能にする地域の多様な主体（行政、企業、メディア、高等教育機関、NPO/NGO、市民等）を顕在化させ、国として取り組むべき領域を超えた協働事業の支援をする。

### 【基本方針】

- 1) EPO 中部が培ったネットワークや協働促進のノウハウを拡充し、協働促進のための基盤を強化する。
- 2) 国がすべき役割を明確にし、地域の主体による領域を超えた協働事業を支援する。
- 3) 具体的な地域課題の解決に向けて、人材、資金などを持ち寄り、解決のための協働事業を実施する。

### 【事業方針】

- 1) 協働促進のための地域ニーズに適した、コンサルティング機能等の利用価値あるサービスの提供
- 2) 協働促進に有効な、情報収集及び実施した（関わった）協働事業の可視化
- 3) 2014 年開催の「国連持続可能な開発のための教育の 10 年（以下 DESD10 年）」最終年会合に向け、「持続可能な開発のための教育（以下 ESD）」の認知度向上、多様な主体による協働実践の支援
- 4) 協働事業実践者の「つながる」場の創出や、領域を越えて実施すべき協働事業の検討、実施のための人材・資金の確保、事業実施主体形成等の支援
- 5) 生物多様性保全や ESD 等の分野における地域の具体的課題を設定し、マルチステークホルダーによる対話、「環境、経済、社会の統合」による事業（協働政策等）の検討及び実施の支援
- 6) 「協働」の専門家の参画による EPO 中部の運営及び事業の質の向上を図る
- 7) 環境省及び全国 EPO ネットワークと連携し、国として又は全国で取り組むべき課題共有、事業展開のためのしくみをつくる。

## 2. 平成 24 年度目標と事業方針

### 【目標】

EPO 中部の目標・方針を管轄地域に明確に打ち出し、管轄内の協働に関する現況を把握し、国と地域が協働して実施すべき事業を検討、実施する。管轄内のステークホルダーとの関係性を広げ、深める。

1. 利用者ニーズを把握し、利用価値のある施設サービス（特にコンサルティング）を提供する。
2. ステークホルダーと関係性を深め、協働に関する情報を収集しやすいしくみをつくる。得た（扱った）協働事業を可視化し、協働促進を可能にする情報ソースとする。
3. ESD の認知度を高め、多様な主体の協働による ESD 実践が活性化するため主体形成、人材育成等の支援を行う。
4. 協働事業に関する情報や経験を交流する「つながる場」を創出するための基盤整備を行う。
5. 地域の多様な主体の、資源（人材・資金等）の持ち寄りによる協働事業が実践されるための支援を行う。
6. 地域課題の把握、県域で取り組むべき協働事業の検討等、扱う課題に関する専門家等ステークホルダーとの対話の機会を設ける。
7. 「協働」の専門家による EPO 中部運営及び事業の質向上を図る会議体を設置し、会議を実施する。
8. 環境省及び全国 EPO ネットワークと共通課題を共有し、国として又全国 EPO が連携して取り組む。

### 【業務内容】

1. 協働事業促進のための情報収集提供・コンサルティング業務  
(Web サイトを活用した情報発信、PR)
  - (1) 情報提供、コンサルティングなどサービス向上のための利用者ニーズ把握、検討、実施
  - (2) 協働事業に関する情報収集のためのしくみの検討と情報提供基盤の拡充、収集した協働事業に関する情報の可視化と分析項目の検討・実施
2. 地域課題解決のための協働促進のための支援業務
  - (1) 持続可能社会に向けた地域協働モデルづくり
    - 1) 「ESD 協働推進会議(仮称)」の設置と協働による ESD 普及・実践の実施及び支援
    - 2) 「持続可能なコミュニティ形成のための協働事業の公募」に向けた基盤整備と実施
  - (2) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化
    - 1) 「持続可能なコミュニティづくりメッセ(仮称)」開催に向けた基盤整備
    - 2) 「持続可能なコミュニティ形成のためのマルチステークホルダー会議(仮称)」開催のための地域ニーズ把握や実施主体形成等基盤整備
  - (3) 政策コミュニケーション支援
  - (4) 地元の様々な主体が交流する機会の提供
  - (5) 地方環境事務所との協働による事業実施
3. EPO 中部運営及び EPO のあり方についての検討  
(中部環境パートナーシップオフィス運営会議の開催等)
  - (1) 「EPO 中部運営会議(仮称)」の設置及び開催
  - (2) 環境省及び全国 EPO と対話し、国として取り組むべき事業、実施のためのしくみの検討